21 SEABORG 300J/JL

取扱説明書

目次

安全上のご注意 ----------1〜7

電源について ----------8,9
電源とのつなぎ方 ----------8
電源について ----------9
バッテリーチェック表示について ----------9

お手入れ方法 ----------10,11
リールのお手入れについて ----------10
お手入れ方法 ----------10
コード取扱い上のご注意 ----------11
コードのお手入れのしかた ----------11
その他お手入れ上のご注意 ----------11

各部の名称と機能 ----------12,13

スイッチの名称と働き ----------14

機能設定の基本操作 ----------15〜47
1.メニュー画面の使い方 ----------15,16
便利機能の設定のしかた ----------15,16
2.道糸入力 ----------17〜26
P1 糸長入力 ----------17〜19
P2 下巻入力 ----------20〜23
P3 引出入力 ----------24〜26
3.サブカウンター ----------27〜29
底からカウンター ----------27
巻上速度表示 ----------28
巻上残り時間表示 ----------29
4.釣りを始める前に ----------30
水面ゼロ設定 ----------30
道糸が切れてしまったら ----------30
5.船べり停止 ----------31,32
えらべる船べり自動停止 ----------31,32
6.糸送り機構 ----------33
7.チョイ巻き/チョイ止め ----------34
8.シャクリ ----------35〜37
9.タイマー ----------38
10.タイマー巻上 ----------39
11.フカセモード ----------40,41
12.一定速度巻上モード ----------42
13.水深補正 ----------43
14.実釣来歴 ----------44
15.ハンドルノブの取り外し方 ----------45
16.その他の便利機能 ----------46,47
いろいろアラーム ----------46
アラームON・OFF選択 ----------46
Language(言語)選択 ----------46
単位選択 ----------47
カウンターランプ ----------47
ブレーカー作動表示 ----------47

仕様一覧 ----------48
リール仕様一覧 ----------48
カウンター部仕様 ----------48

展開図 ----------49

故障かな?と考える前に ----------50

ライン入力方法一覧

このリールは下記の方法で入力できます。

P1 糸長入力 17〜19	巻く糸の全長がわかっている時に便利な方法。
P2 下巻入力 20〜23	下巻きを入れる時の入力方法。ただし、長さのわかる道糸100M以上が必要です。
P3 引出入力 24〜26	道糸を巻き終った状態から引き出して再入力するための方法です。ただし、長さのわかる道糸100M以上が必要です。

この度は、21シーボーグ300J/JLをお買上げいただきまして、誠にありがとうございます。船釣りに便利な機能が多く搭載されているこの電動リールを正しくご使用いただくために、ご使用になる前にこの取扱説明書をよくお読みください。またリール同様、この説明書も大切に保存していただきますようお願い申し上げます。

安全上のご注意

電動リールをご使用にあたり注意していただきたい大切なことが記載されています。ご使用前に必ず、お読みいただくようお願い致します。

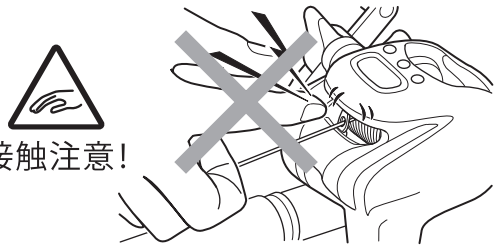
●マークについて

⃠	この記号は「してはいけないこと」を意味しています。 この記号の中や近くに、具体的な禁止内容を表示します。
△	この記号は「注意すべきこと」を意味しています。 この記号の中や近くに、具体的な注意内容を表示します。
○	この記号は「しなければならないこと」を意味しています。 この記号の中に、具体的な指示内容を表示します。

⚠ 警　告

記載事項を無視して、誤った取り扱いをすると、生命に関わる障害・重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

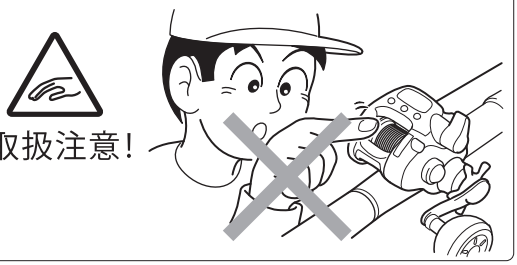
●糸をスプールに平行巻きにするレベルワインドと本体の間に指をはさまれないようご注意ください。けがをする恐れがあります。



●糸送り（モーター作動）中にクラッチをＯＮにすると糸を巻き込みます。その際は指をはさまれないよう注意してください。けがをする恐れがあります。



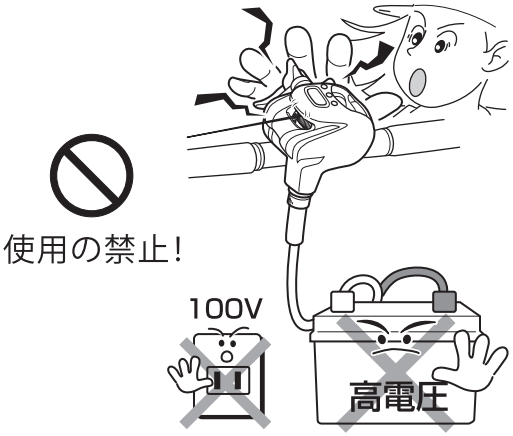
●お子さまが使用する時は、回転部やスキマに手をはさまれないよう、付き添いの保護者の方は十分ご注意ください。



●幼児の手の届く所では保管、使用はしないでください。



●バッテリー、船電源などを使用する場合は、所定電圧以外を使用しないでください。所定の電圧以外を使用すると、電動リールが異常発熱し、手をヤケドしたり、ＩＣが故障したりする恐れがあります。家庭用（交流）電源にはつながないでください。回路がショートし発煙・発火する場合があります。



安全上のご注意

⚠ 警　告

記載事項を無視して、誤った取り扱いをすると、生命に関わる障害・重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

●電動リールを使用されますと微弱な電波が発生し、補聴器・ペースメーカー等の医療機器が誤作動したりするなど影響を与える場合があります。特に心臓ペースメーカーをご使用されている方が電動リールを使用されますと、動悸、目まいが起こる場合がありますので、本製品のご使用前に必ず当該各医用電気機器メーカー、もしくは販売業者に電波による影響についてご確認ください。





●ハーネスなどで電動リールを体に固定するのはおやめください。
大きな魚により、海水へ引き込まれるなど、生命身体に危害が及ぶ恐れがあります。



⚠ 注　意

記載事項を無視して、誤った取り扱いをすると、けがや物的損害を負う可能性が想定される内容を示しています。

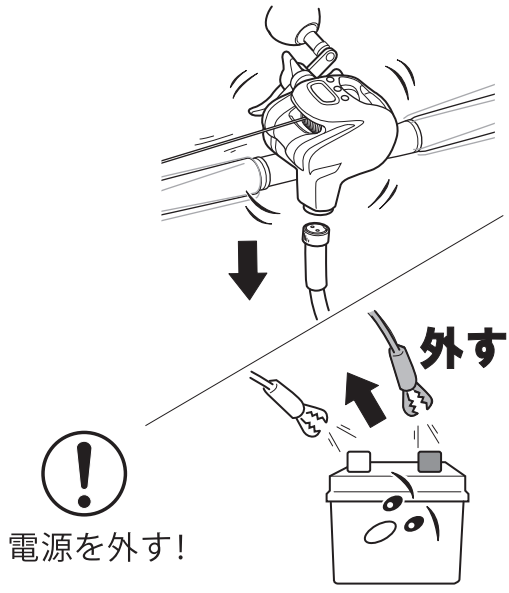
●駆動しているとき、駆動部分に触れないでください。けがをする恐れがあります。



●液晶中に水滴が見られる場合、モーターの回り放しなどＩＣが故障して異常動作をすることがあります。すぐにご使用をやめて修理にお出しください。



●何らかの異常で釣りの最中にモーターが回り放しになった場合は、指をはさまれない様、注意して、直ちに電源を外してください。

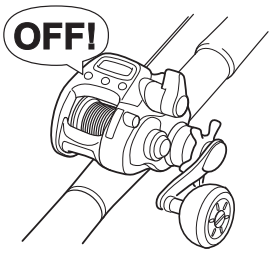


安全上のご注意

⚠ 注　意

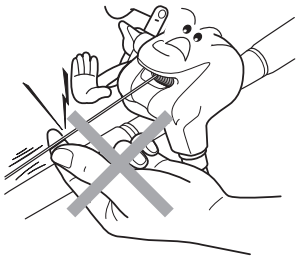
記載事項を無視して、誤った取り扱いをすると、けがや物的損害を負う可能性が想定される内容を示しています。

●ドラグ力を設定する際は、必ずその前に、電動自動巻き上げをＯＦＦにしてください。手で糸を引いてセットする場合等で、糸で手を切る恐れがあります。



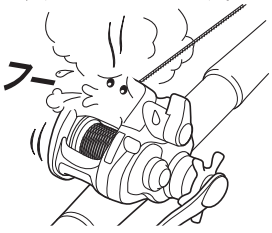
電源を切る！

●糸が勢いよく出ているとき、または、糸を巻いているときに、糸をつかまないでください。糸で指を切ることがあります。



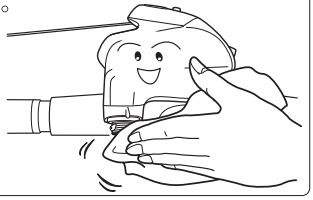
接触注意！

●屋内で糸を巻くときは、高速で行ってください。
低速・高テンションで長時間かけて糸を巻くと、モーターが異常に発熱し発煙する恐れがあります。
また、電動巻上性能が低下することがあります。



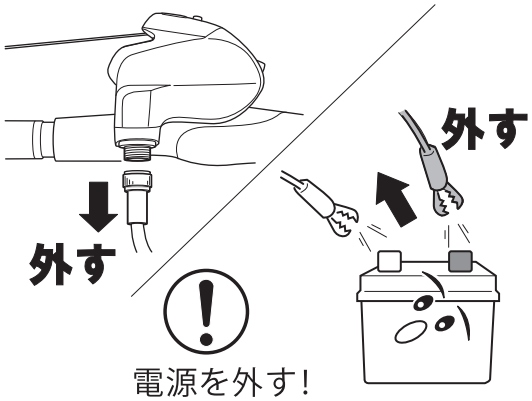
取扱注意！

●船上でコードの再接続をするときは、接続部に海水などの水分が付着していることがありますので、乾いた布でよく拭き取ってから、接続してください。
そのまま接続すると、ショートして、感電・発煙・発火の恐れがあります。



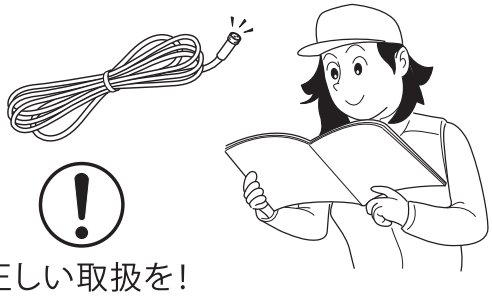
取扱注意！

●お手入れの際は、駆動を停止して、電源を抜いてから行ってください。不意に駆動して、けがをする恐れがあります。



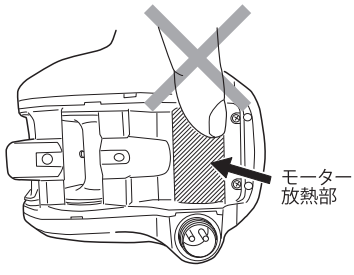
電源を外す！

●使用状況や保管状況によって、コードが断線、ショートなどの故障を起こし、発煙・発火に至る場合があります。『コード取り扱い上のご注意』、『コードのお手入れのしかた』、『その他お手入れ上のご注意』を必ずお守りください。
なお、コードの手入れは、電源を外してから行ってください。古いコードは断線、ショート等故障の原因となりますので、リールの性能を維持するためにも、2年での交換をおすすめ致します。



正しい取扱を！

●モーター放熱部には、手を触れない様ご注意ください。高温になる場合があり、やけどの恐れがあります。



接触注意！

安全上のご注意

⚠ 注　意

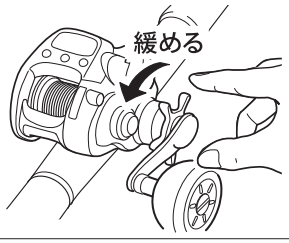
記載事項を無視して、誤った取り扱いをすると、けがや物的損害を負う可能性が想定される内容を示しています。

●根掛かりしたときは、竿をあおらず糸を手に取って切るようにしてください。（手袋やタオルで必ず手を保護しましょう。）
太いハリスをご使用になっている場合、手で持って切れそうもないと思われるときは、船長に相談して安全に対処してください。



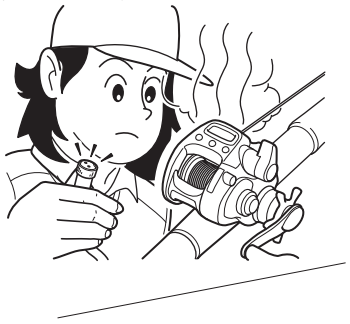
⚠
けがに注意！

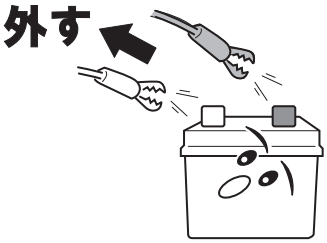
●電源をつなぐ前に、必ずドラグを十分に緩めてから接続してください。
ＩＣ故障時にモーターが回り放しになり、仕掛けを巻き込み、竿を破損する恐れがあります。



❗
取扱の実施！

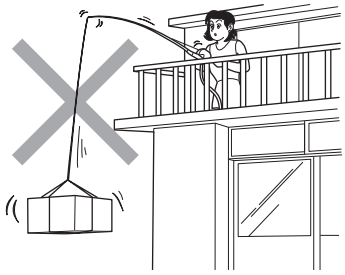
●こげくさい時や漏電など、異常時には直ちに駆動を停止して、電源を外してください。発熱や発火・感電などの原因になります。





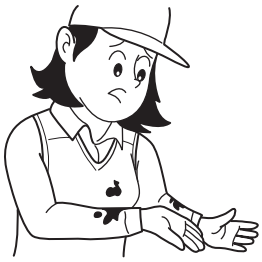
❗
電源を外す！

●リールを釣り以外の目的で使用しないでください。



🚫
目的以外の
使用禁止！

●リールの回転部にはグリスや油が付いていますので、服を汚さないように注意してください。



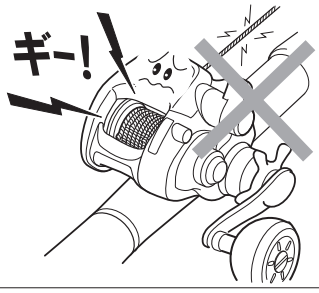
⚠
取扱注意！

●塗装やメッキなどの表面層あるいは素材の表面が剥れた場合は、その部分に触れないでください。けがをする恐れがあります。



🚫
接触禁止！

●ワイヤーは、道糸として使用しないでください。スプールが腐食したり、破損したりすることがあります。



🚫
使用の禁止！

安全上のご注意

⚠ 注　意

記載事項を無視して、誤った取り扱いをすると、けがや物的損害を負う可能性が想定される内容を示しています。

●他の釣り人と仕掛けが絡んだり、根掛かりしたときは、無理に巻かないでください。
竿その他を破損する恐れがあります。



取扱注意！

●分解・改良などはしないでください。リールの性能に不具合が生じたり、故障につながる原因となります。



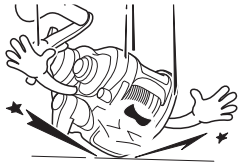
改造の禁止！

●コードの改造はしないでください。ショートなどの故障を起こし、発煙・発火の恐れがあります。



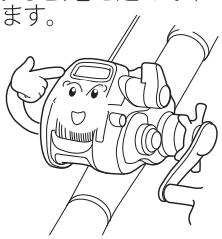
改造の禁止！

●落下などのショックにより破損あるいは内部電子部品の損傷、クラックによる浸水、基板短絡が生じ機能障害を起こします。強い衝撃や重圧が加わらないようご注意ください。（外観上には異常が見られなくても故障していることがあります。）



取扱注意！

●使用途中で、カウンター表示がずれてきたり、道糸が切れたり、電源が外れたり、大きな張力変動があったりしたときは、カウンター表示の再設定を行ってください。
そのままで再度使用しようとすると、巻き込んで竿その他を破損する恐れがあります。
水面に仕掛けがある位置でのリセットを忘れた場合も同様のことが起こる恐れがあります。



操作の実施！

取扱上のご注意

電動リールの取扱いで特に注意していただきたい大切なことが記載されています。ご使用前に必ず、お読みいただくようお願い致します。

■マグシールド
「マグシールド」は磁性を持つ液体を利用することで、磁性を持つ液体の壁を作り、水の浸入をシャットアウトする画期的構造。滑らかな回転はそのままに、水、異物の侵入を抑えることで初期回転性能を長期間持続。イヤな塩ガミがなくなることで、長期間使用時の回転低下や異音を改善し、耐久性が大幅に向上。
■マグシールドボールベアリング
独自の技術により、ボールベアリングそのものをマグシールド化。磁性を持つ液体の壁によって、ボールベアリング内部への水、異物の侵入を抑えることで、ボールベアリング自体の錆、塩ガミ、異音を大幅に解消。

⚠ 注意

・マグシールドボールベアリングそのものへの注油は絶対におやめください。
　マグシールド機能を損ないます。
・分解作業は絶対におやめください。マグシールド機能を損ないます。

⚠ 注意

マグシールドボールベアリングの優れた防錆・防塵性能は、内部に封入された磁性を持つ液体（マグオイル）の壁により維持されております。
・マグオイルはやや多めに封入されている為、ボールベアリングの表面にマグオイルが滲み出ることがありますが、性能には影響ありません。（表面の滲み出たオイルは拭き取らないでください。）
・マグシールドボールベアリングを指や、布、綿棒等で触れたり、拭いたりすることは絶対におやめください。マグオイルが拭き取られることにより、マグシールド機能を損なう恐れがあります。

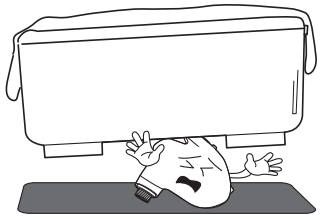
安全上のご注意

取扱上のご注意

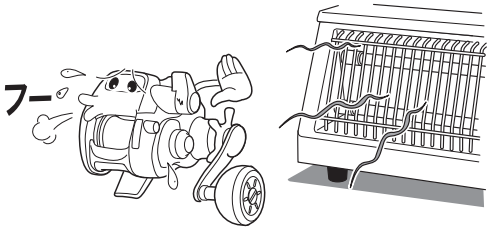
電動リールの取扱いで特に注意していただきたい大切なことが記載されています。ご使用前に必ず、お読みいただくようお願い致します。

⚠ お願い

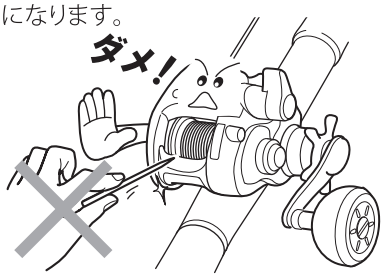
●リールの上に乗ったり、物を載せたりしないでください。故障の原因になります。



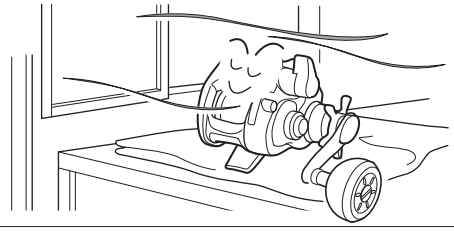
●発熱器具のそばに置かないでください。樹脂が溶けて変形したり劣化して、故障の原因になります。



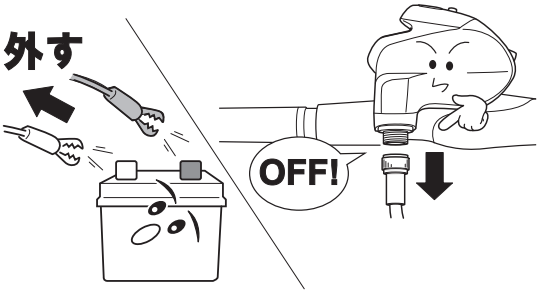
●スプールとフレームのスキマやその他本体のスキマに棒や金属物などを入れないでください。故障の原因になります。



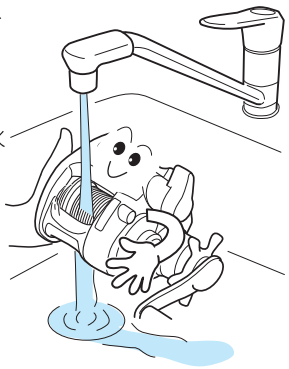
●リールを長期間収納するときは、水分を完全に切り、直射日光を避けなるべく通風性のよい場所に保管してください。
また、ドラグを緩めた状態で保管してください。



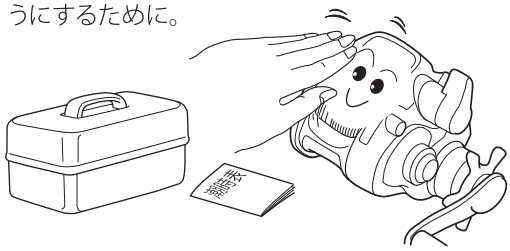
●電源を外すときは、駆動を停止してから、行ってください。故障の原因になります。



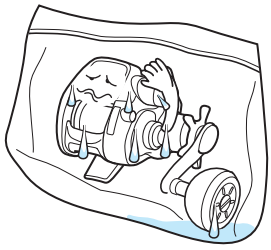
●塩分を含んだ海水で道糸が湿った状態のままで保管するとスプールが腐食する恐れがあります。水道水を糸巻き部にあたるように掛けて海水を十分流してから通気性の良い直射日光のあたらない場所で乾燥させてから保管してください。



●釣りにお出かけの前には、リールの点検（動作点検）を行ってください。
故障によって、釣行に支障をきたすことのないようにするために。



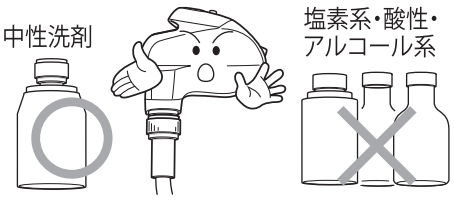
●濡れたままビニール袋やバッカンなどで、リールを保管しないでください。錆や故障の原因になります。



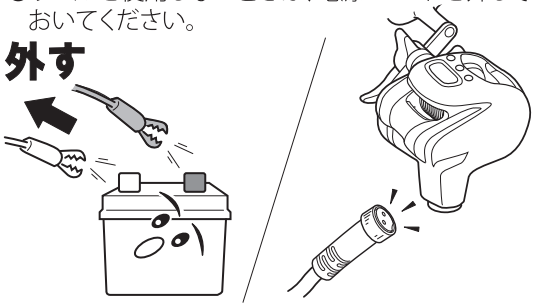
安全上のご注意

⚠ お願い

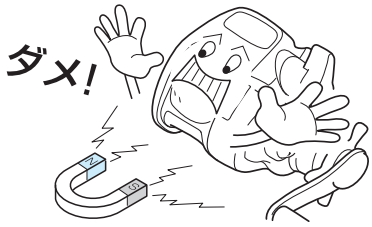
●電動リールを洗剤で洗うときは、中性洗剤を薄めて使用してください。塩素系、酸性及びアルコール系洗剤は使用しないでください。樹脂が劣化して、故障の原因になります。



●リールを使用しないときは、電源・コードを外しておいてください。



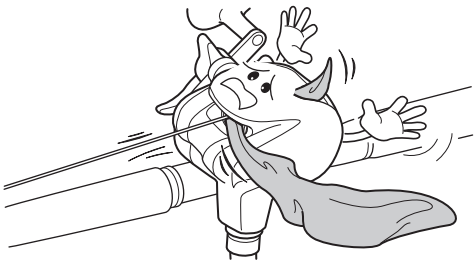
●磁石等磁力のある物は近づけないでください。誤動作や故障の原因になります。



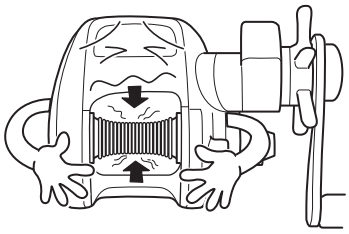
●振り出しロッドを仕舞い込む際に、リールをつけたまま竿尻を床面等にトントン叩いて仕舞わないでください。リールが破損する恐れがあります。



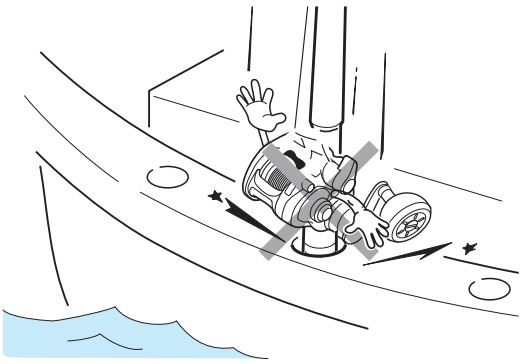
●糸巻き中に布などが巻き込まれないように、ご注意ください。
また、バックラッシュ等によりフケた糸の巻き込みにもご注意ください。



●水気を含んだ糸を強い張力で巻いた状態でリールを保管しないでください。保管時に糸が乾燥すると縮み、スプールを破損する恐れがあります。
特に、PE専用機種には、ナイロン・フロロラインなどを巻かないでください。



●船べりの穴へ竿にリールをつけたまま入れる場合は、船べりにリールが直接当らないか確認してください。当る場合は、穴へ入れることはおやめください。リールを破損する恐れがあります。

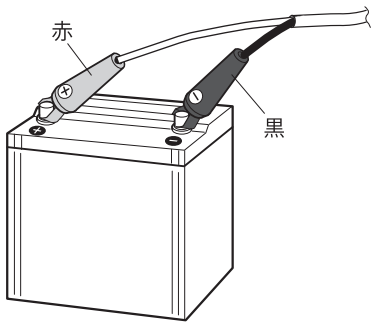


◆カウンター部について
①真冬（カウンターの表面温度－10℃以下）および真夏（カウンターの表面温度60℃以上）
※上記の場合には、液晶の特性上文字が見にくくなることがございます。ご了承ください。
②早朝や夕方など太陽光の入射角によって液晶表示の影が見えることがありますが異常ではありません。

電源について

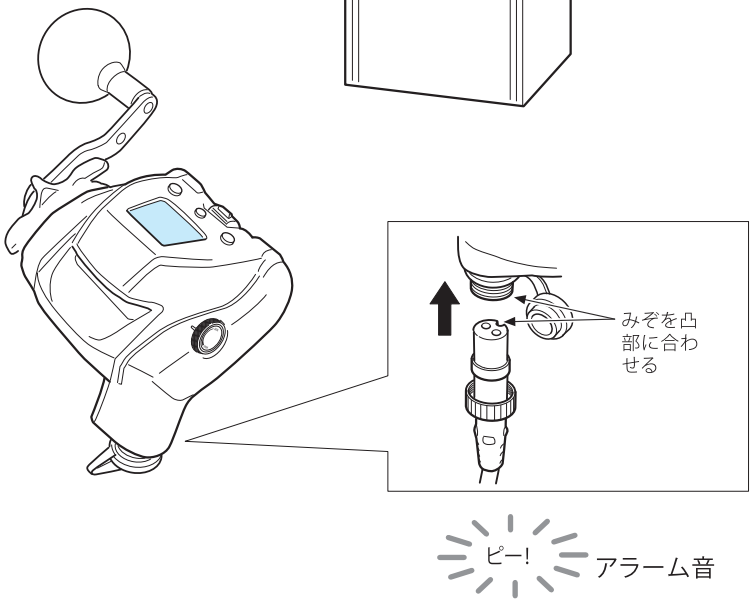
●電源とのつなぎ方

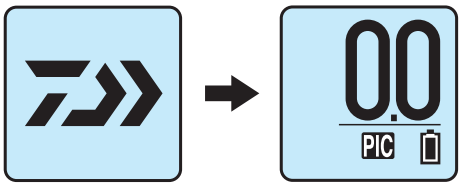
1.まず、コードのクリップ（2つ）と電源をつないでください。
クリップは赤いカバーのほうがプラス ⊕ 、黒いカバーのほうがマイナス ⊖ です。



2.次に、付属コードのコネクターとリール本体をつないでください。

※以上の手順が正しく行なわれると、下図のように表示変化したうえで、セットされます。





（電源投入画面）　（水深画面）

注意

・1度電源につなぐと、メモリーバックアップ（カウンター情報の保存）機能が働くため（最低15分間）、その後の電源との再接続時には、上記の表示変化がされないでセットが完了するケースがありますが、問題はありません。

電源について

●電源について

このリールは直流（DC）12V対応の電動リールです。指定外の電源（たとえば、家庭用の交流（AC）100V、船装備の直流24Vなど）では使用できません。
なお、船電源は、発電機や配線の関係で電圧が不安定になりやすく、リールの保護回路が働いて回転が停止したり、断続的になってしまうことがあります。リールの性能を充分に発揮させるためにも、電動リール専用バッテリーをご使用ください。

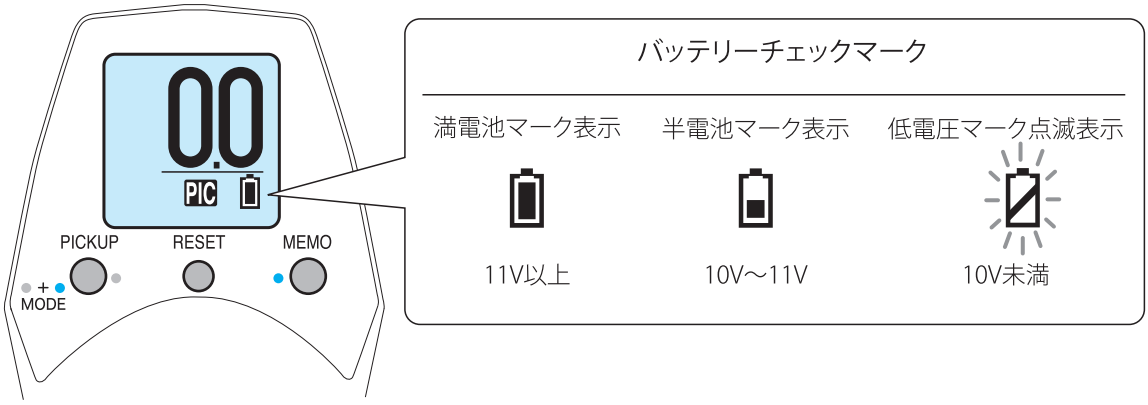


⚠注意

※出発前によく確かめてください。
1.バッテリーは、長時間放置されると自然放電（残量低下）している可能性があります。釣行前には、必ず充電を行なってください。
2.船の電源は、電圧、接続端子の形状などにより使用できないことがあります。事前にご確認することをおすすめします。
・端子のサビなどによりリールが正常に作動しない場合があります。サビなどは取り除いてご使用ください。

●バッテリーチェック表示について

通電時に、電源電圧が低下すると、下記のようなバッテリーチェックマークが表示されます。
10V以下では巻き上げ出力が制限され、最大限発揮できないことがあります。
モーター回転がストップしているときにこの表示が点滅している場合、バッテリー残量の減少による電圧低下が考えられます。そのときには、バッテリーを充電したものと交換してください。（船電源をご使用の場合は、電源の電圧や端子をチェックしてください。）



※リールの検知電圧は、実際の電源電圧と多少誤差がある場合があります。
※バッテリーが切れカウンター表示が消えた状態で（魚とのやりとり等で）手巻きで糸を巻くと水深カウンターが狂い、次の投入で電動巻上げした時に糸を巻き込み、竿先を折る可能性がありますのでおやめください。カウンターが消えたら、そのままの状態でバッテリーを交換してください。

お手入れ方法

●リールのお手入れについて

このリールは水洗いできる「洗える電動リール」です。釣りが終わった後で汚れなどをきれいに洗い流してください。

●お手入れ方法

1.中性洗剤を含ませた、柔らかいスポンジなどでリール本体を洗い、汚れを落とします。

※汚れがひどい場合に使う洗剤は、中性洗剤のみを薄めて使用してください。

※使用量目安：水1ℓに対して1.5mℓ

液体（薬用）石鹸など石鹸類及び弱アルカリ性など中性以外の洗剤のご使用はおやめください。故障の原因になることがあります。

2.水をかけて洗剤と汚れをよく落としてください。スプール部にもよく水をかけて塩分を落としてください。

給湯器をご使用の際は、温度設定を30℃以下としてください。

3.よく水を切り、陰干ししてください。

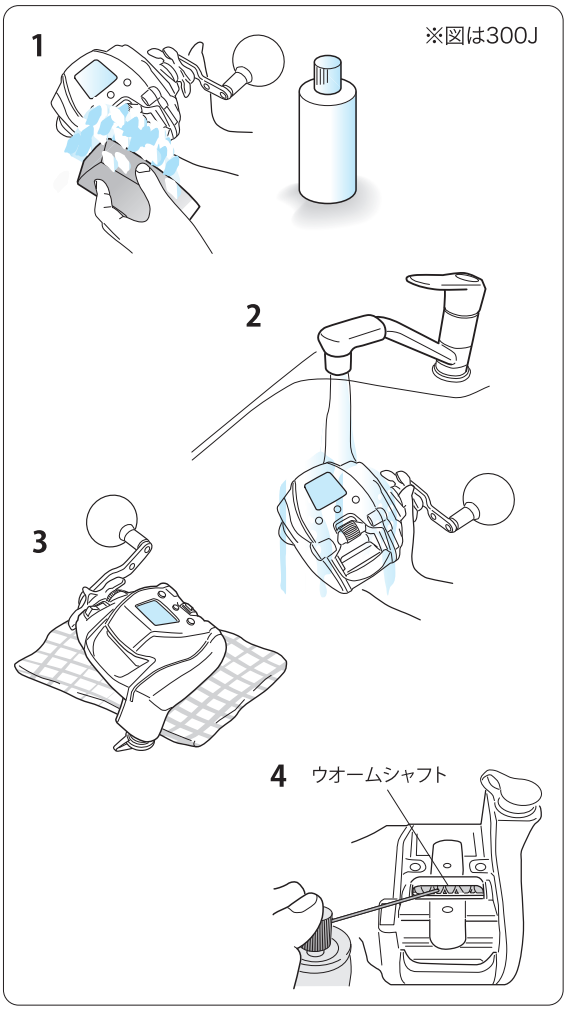
※保管の際は、ドラグを緩めてください。

※ハンドルノブ内部には水がたまりやすいため、特に注意して水切りをしてください。

4.注油してください。

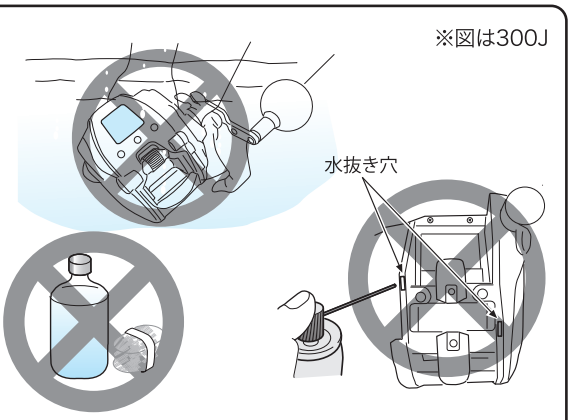
ウォームシャフト部へシュッとひと吹き注油します。

※推奨グリス：純正リールガードグリス
（商品コード：04980020）
専用スプレーは釣具店にてお取り寄せください。



⚠注意

- 海水で洗ったり、水の中につけて洗うことは絶対にしないでください。
- ベンジン、シンナーなどの有機溶剤は絶対に使用しないでください。
- リール本体に傷が付きますので、みがき粉、タワシ、スチールタワシなどは絶対に使用しないでください。
- 注油したオイルがはね返り噴き出す可能性もあるので、のぞき込まないでください。
- 水抜き穴への注油は、絶対にしないでください。
- 本体に磁力を近づけないでください。



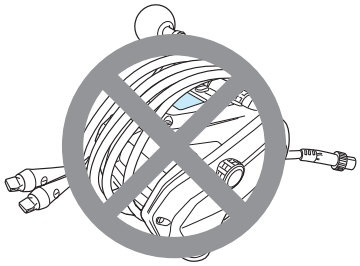
お手入れ方法

●コード取扱い上のご注意

コードの断線等によるトラブルをさけるために必ず守ってください。
付属の専用コードをご使用ください。
※他のコードとは互換性がありませんのでご注意ください。
※コードを改造することはおやめください。思わぬ故障の原因となります。コードは大切にしてください。



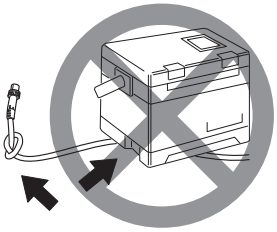
・コードを持ってリールをぶらさげることは、おやめください。



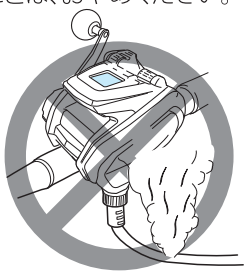
・リール本体にコードを差し込んだまま本体にぐるぐる巻き付けることは、おやめください。



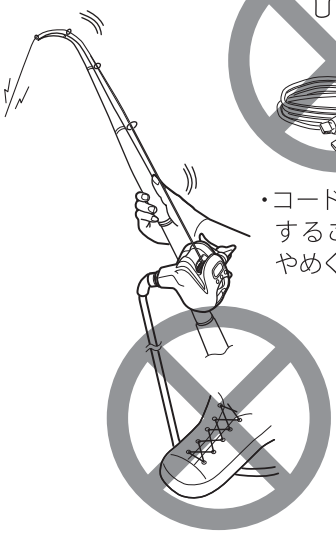
・コードを水洗いすることは、おやめください。



・コードの上に重い物を乗せたり、コードを結んでしまうような行為は、おやめください。



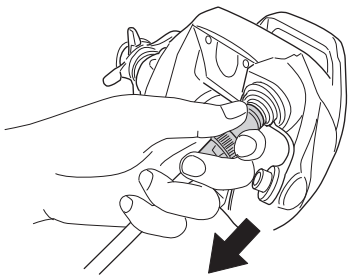
・煙や異臭などの異常が発生した場合、ただちに使用を中止し、バッテリーから外してください。



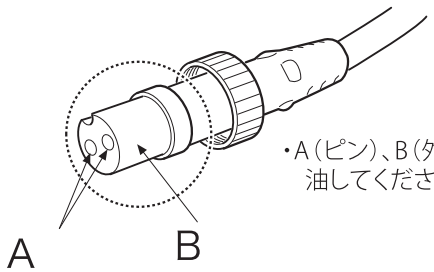
・ご使用の際、コードを足で踏んだり、荷物などに引っ掛かったままアワセ動作などで強く引っ張ると、外観に異常は無くても内部の電線が切れる可能性があります。

●コードのお手入れのしかた

・ご使用後は、水道水または温湯で浸した柔らかい布で、外観部の汚れを拭き取り、よく乾かしてください。
・特に、ワニグチクリップは、カバーを外して、完全に乾かしてください。
・乾燥後は、コネクター部の注油を行なってください。
・リールのコードは、本体から外して保管してください。



・コードを抜くときは、必ずコネクター部を持って抜いてください。



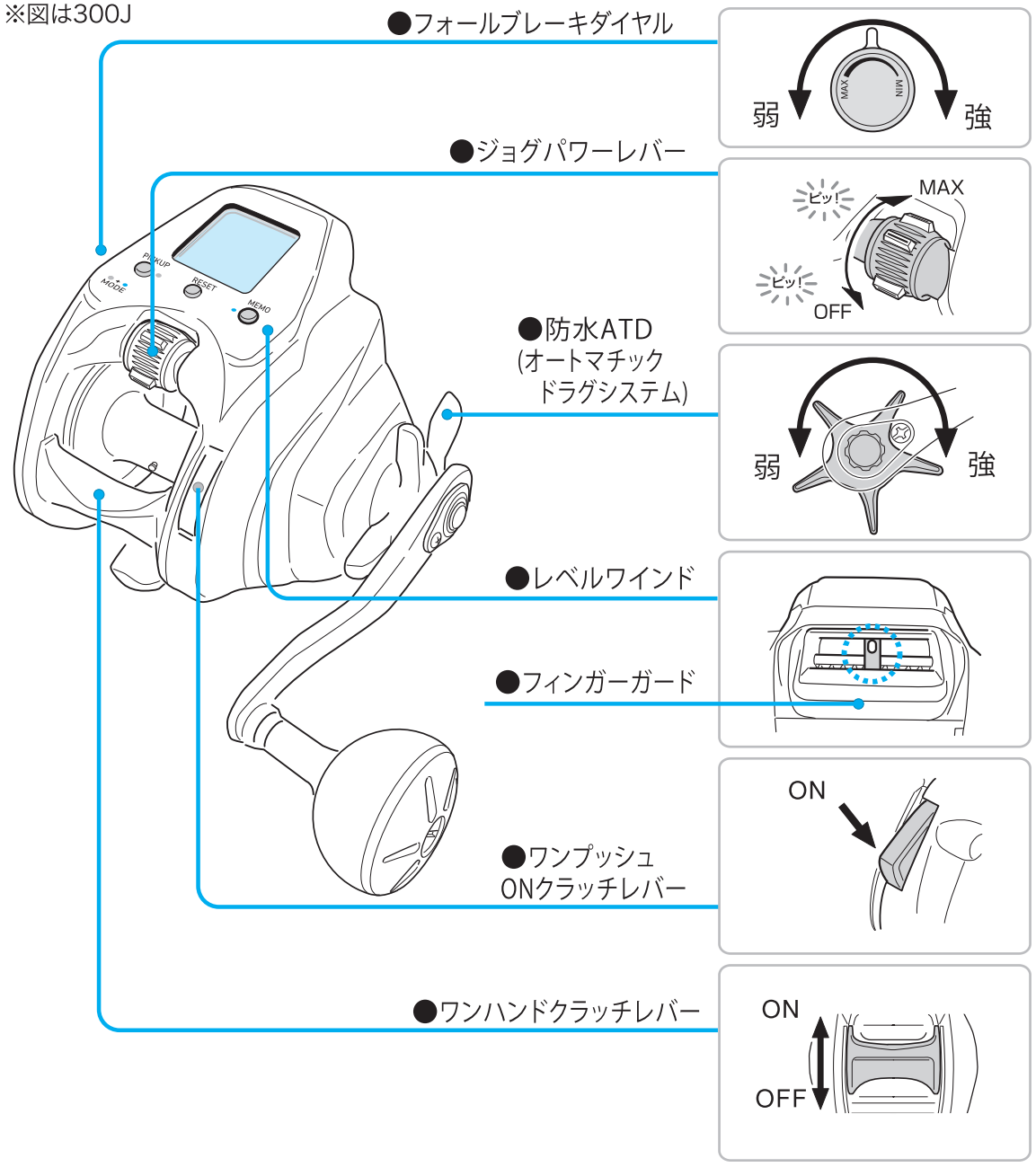
・A（ピン）、B（外周部）に注油してください。

●その他お手入れ上のご注意

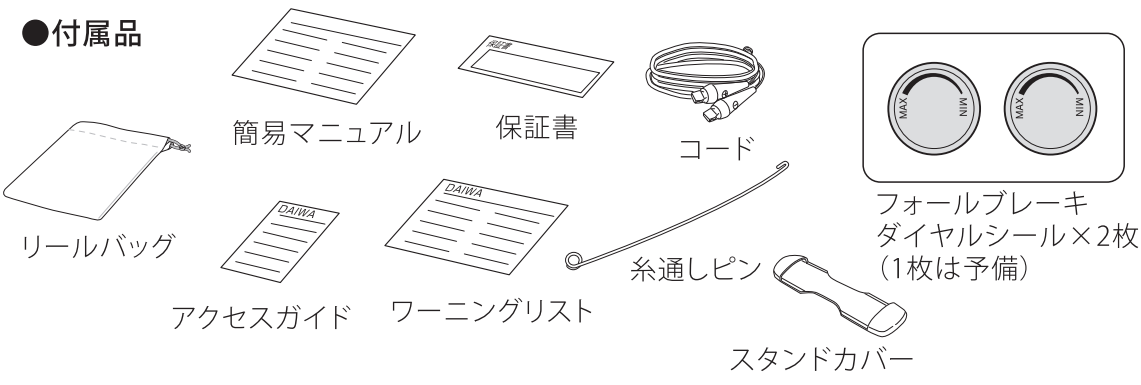
・このリールは電気回路、モーターなどの精密な部品を内蔵しておりますので、お客さまご自身での分解組み立ては極めて困難です。おやめください。
・コネクター部保護のため、リールをご使用にならないときは防護用コネクターキャップでフタをしてください。
・古いコードは断線、ショート等故障の原因となりますので、リールの性能を維持するためにも、2年での交換をおすすめ致します。

各部の名称と機能

※図は300J



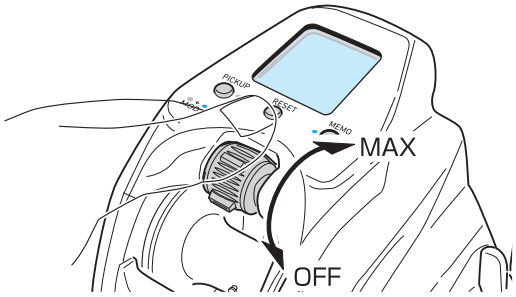
●付属品



各部の名称と機能

●ジョグパワーレバー

・レバーは、親指で転がして操作ができます。



・レバー操作により巻上げ出力（パワー/スピード）をOFF～MAXまで自由自在に変速させることができます。
・レバーを前（MAX側）に倒すと、出力がアップします。
レバーを元（OFF側）に戻せば、出力がダウンします。
・巻上げを開始するとき、レバーがOFFの位置にないときは、レバーを一度OFFの位置まで戻して（OFFの位置でアラームが鳴ります）から、レバーを前に倒して巻上げを開始してください。
・船べり停止位置付近では、安全のためレバー操作がきかない場合があります。
・巻き上げ負荷の変動等で、レバーの設定表示が上下する時がありますが、異常ではありません。

●防水ATD(オートマチックドラグシステム)　※ドラグノブクリック付き

・スタードラグの締め付けを調節することにより、魚の急激な引きに対応し、スプールが空転して糸切れを防ぐ機構です。
1.リールをロッドにセットし、ラインをロッドのガイドに通してから調節してください。
2.クラッチONの状態で、手で糸を引き出しながらドラグの締め付けを調節します。通常は、糸（ハリス）が切れる寸前にスプールが空転するように調節します。

●ワンハンドクラッチレバー

・親指で軽く下に押すだけでクラッチが切れます。
◆ONの時→ハンドルを回すと糸が巻き取れます。
◆OFFの時→スプールがフリーになります。ハンドルを正転方向に回せばクラッチONになります。

●ワンプッシュONクラッチレバー

・クラッチOFFの時、レバーを押すとクラッチがONになります。
・ロッドを持っている手で素早くクラッチがONできます。

●フォールブレーキダイヤル

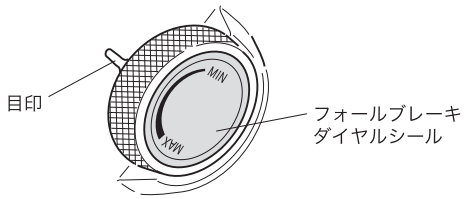
・仕掛けの落下スピードをダイヤル操作で瞬時に設定できるブレーキシステムです。バックラッシュ（糸フケによるパーマ）も防止します。船の揺れや仕掛けの重さなどにより、締め付けぐあいを目印に沿って調節してください。

●レベルワインド

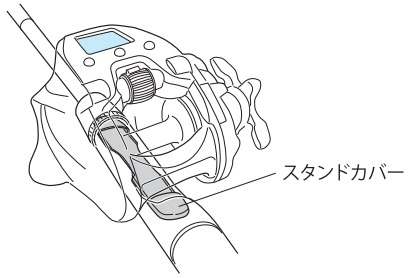
・ガイドに糸を通します。糸がスプールに平行に巻けます。
※糸を巻く際の条件により、スプールへの糸巻き状態に若干の片寄りが見られる場合があります。

●付属品

・コード・リールバッグ・アクセスガイド・ワーニングリスト
・簡易マニュアル・保証書（日本モデルのみ付属）
・糸通しピン
レベルワインドに糸を通すときに使います。（糸通しピンは、付属品としてビニール袋に、リール袋と一緒に入っています）
・フォールブレーキダイヤルシール：2枚　（1枚は予備）
落下スピードをある値に設定する場合は、付属のフォールブレーキダイヤルシールを貼って、目印に合わせる目安としてお使いください。



・スタンドカバー
リール・ロッドへの傷付き防止及びリールシートとのがたつき防止としてお使いください。

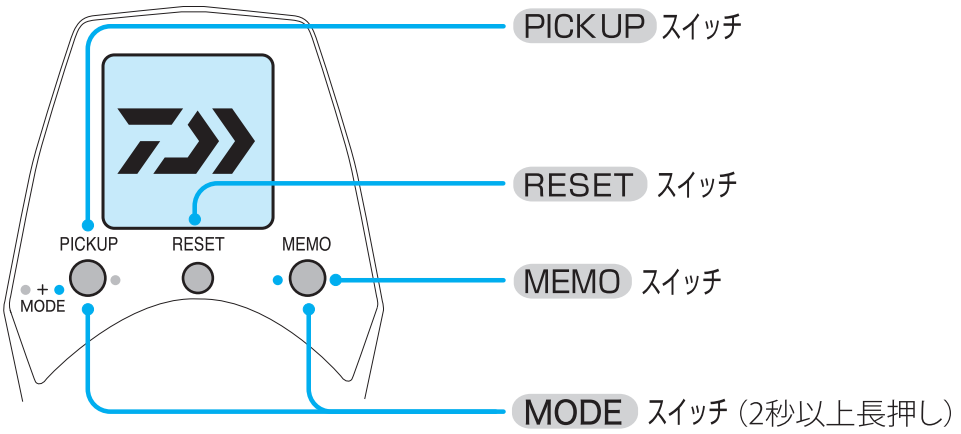


⚠ 注意

※スタンドカバーを付けるとロッドによっては、リールが付かない場合があります。
※取付部が回転するロッドでは、スタンドカバーが破れる場合があります。
※リールシートを強く締め込み過ぎるとスタンドカバーが変形し、スプールに接触してスプールフリー（仕掛け落下）が悪くなる恐れがあります。

スイッチの名称と働き

※図は300J
（300JLはPICK UPとMEMOが逆になります。）



●RESET

・釣りを始める前に必ず一度 RESET スイッチを押してください。
スイッチを押した点を基準に船べり停止点が設定されます。
・長押しで糸切れ時のデータ修正ができます。

●MEMO

・底からカウンターのリセットやタイマーの再スタートに使用します。
・長押しで船べり停止点の設定ができます。
・メニュー内では OK スイッチとなります。

●PICKUP

・チョイ巻・止やシャクリに使用します。
・メニュー内では ⮌ （戻る）スイッチとなります。

●MODE（メニュー）

・ MEMO スイッチと PICK UP スイッチを同時に2秒以上押すと各種便利機能の設定画面となります。

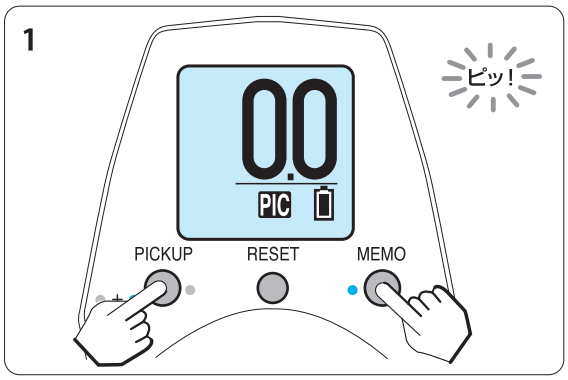
機能設定の基本操作「1.メニュー画面の使い方」

●便利機能の設定のしかた

・メニューの中には便利な機能が満載されています。
※セットした機能は、次の釣行もメモリーされています。
（設定直後に電源を切った場合、メモリーされない場合があります。）

1.表示が 0.0 のときに
MEMO スイッチと PICK UP スイッチ
を同時に2秒間押し続けてください。

※図は300J
（300JLはPICK UPとMEMOが逆になります。）

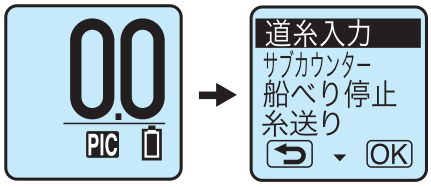


（水深画面）

2.ジョグパワーレバーで各機能を選択し
300Jは OK（MEMO スイッチ）
300JLは OK（PICK UP スイッチ）
を押して、各種設定を行います。

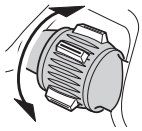
※各機能の詳しい設定方法は、下記のページをご確認ください。

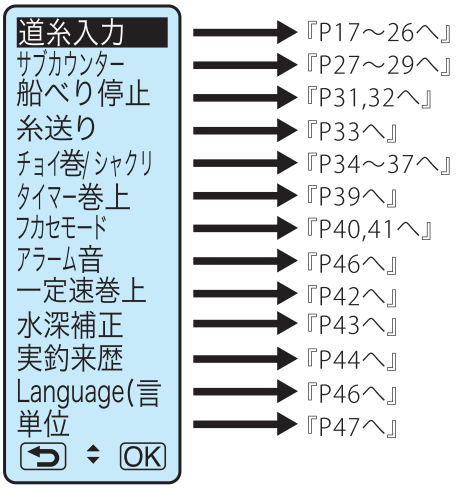
MEMO スイッチ＋
PICK UP スイッチ（長押し）



（水深画面）　（メニュー画面）

ジョグパワーレバー
でメニューを選択

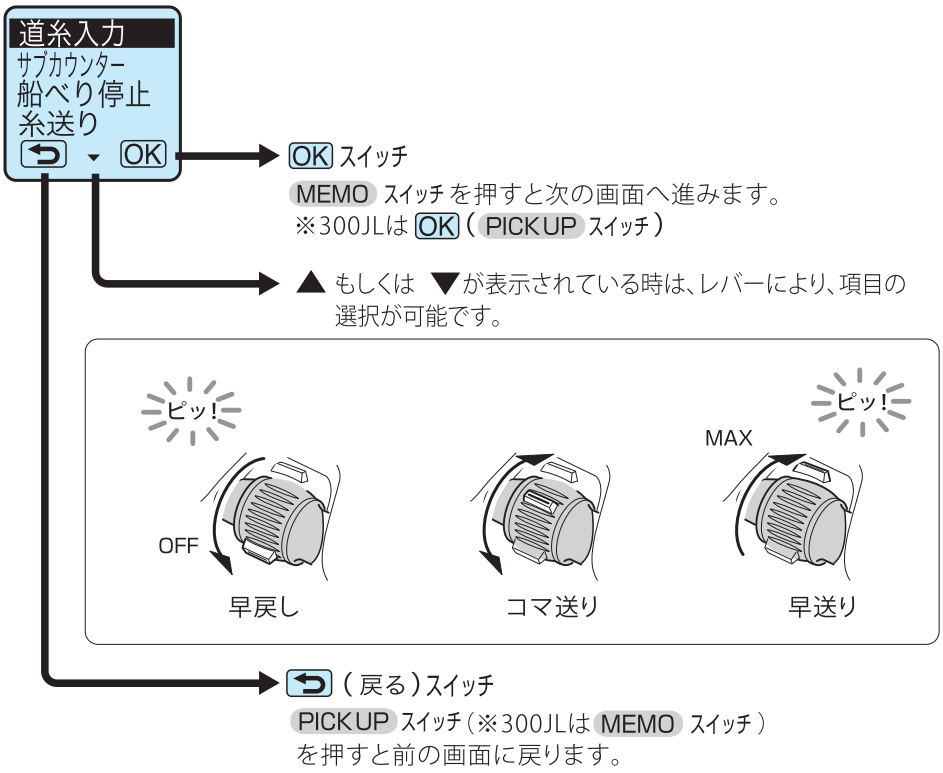




機能設定の基本操作「1.メニュー画面の使い方」

■メニューの操作方法

メニュー画面を例にご説明致します。



3.設定が終了したら、水深画面へ戻り釣りを始めてください。

機能設定の基本操作「2.道糸入力」 P1 糸長入力

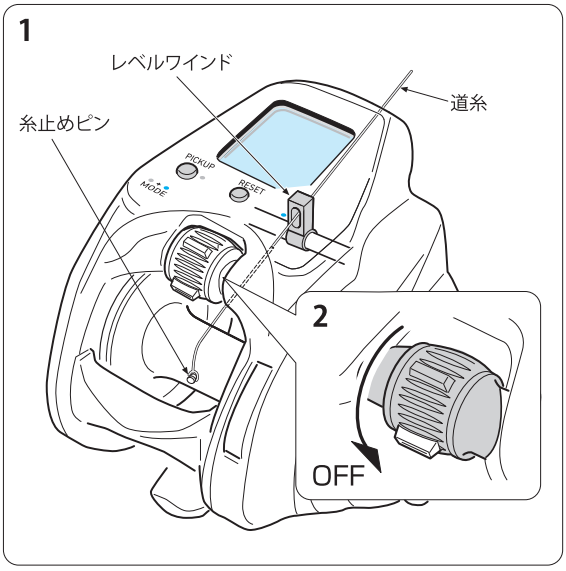
リールに巻く糸の長さがわかっている時に便利な方法です。
（PE3号400mを巻いて入力することを例にしてご説明します。）

⚠ やけどに注意！

道糸入力の際は、モーターが過熱しフレームが非常に熱くなりますので手で直接フレームを触らないでください。濡らしたタオル等をフレームに当てて入力をお願いします。

1.道糸をレベルワインドに通してスプールに結んでください。

※付属の糸通しピンを使うと簡単に通せます。
※スプール面での糸滑り防止のため、必ず糸止めピンに糸を結んでください。
※ドラグを締め付けてください。



2.ジョグパワーレバーをOFFまで戻します。

3.リールを通電させてください。

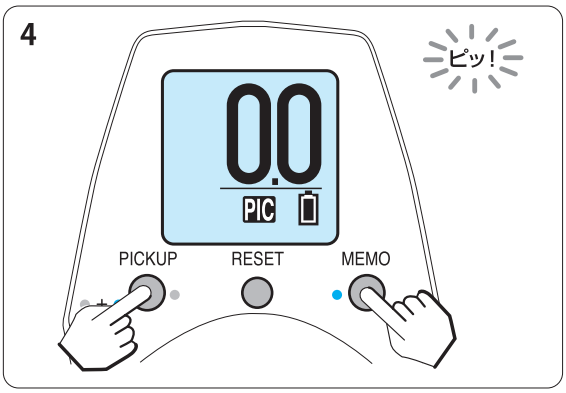
※接続方法については P.8「電源とのつなぎ方」を参照ください。



（電源投入画面）

4.表示が 0.0 のときに MEMO スイッチと PICK UP スイッチを同時に2秒間押し続けてください。

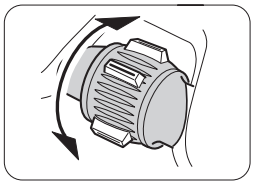
※図は300J
（300JLはPICK UPとMEMOが逆になります。）



（水深画面）

機能設定の基本操作「2.道糸入力」 P1 糸長入力

5.ジョグパワーレバーで「道糸入力」を選択し
300Jは OK（MEMO スイッチ）
300JLは OK（PICK UP スイッチ）
を押します。

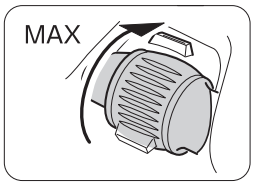


※ジョグパワーレバーを動かすことで選択項目が反転表示されます。

※《実行しますか?》が流れ文字として表示されるので、ふたたび 300Jは OK（MEMO スイッチ）
300JLは OK（PICK UP スイッチ）を押します。

6.「糸長 P1」を選択し
300Jは OK（MEMO スイッチ）
300JLは OK（PICK UP スイッチ）
を押します。

7.テンションを調整して、ジョグパワーレバーをMAXの位置まで倒し道糸を巻きます。



※巻上中、▼がなるべく画面中央にくるようにテンションを調整してください。

5



（メニュー画面）



6



（道糸入力画面）

7



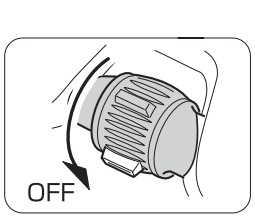
（張力ﾒｰﾀｰ画面）

注意

・フィンガーガードやフレームに糸があたると、リールが傷つくことがあります。
糸があたらないようにご注意ください。
・屋内で低速・高テンションで長時間かけて糸を巻くと、モーターが異常に過熱し故障の原因になります。ジョグパワーレバーをMAXにして入力を行ってください。また、実釣時には海水等で冷却されますのでご心配ございません。

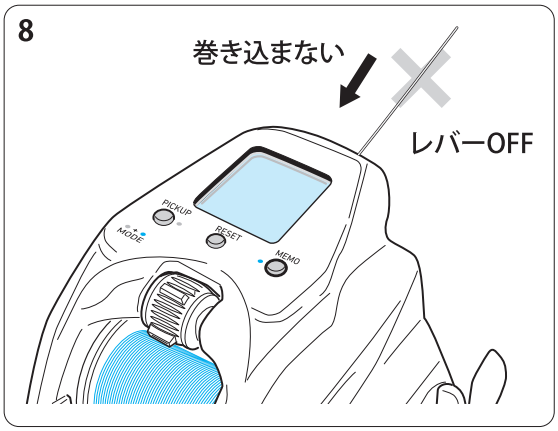
機能設定の基本操作「2.道糸入力」 P1 糸長入力

8.巻き終えたらジョグパワーレバーをOFF位置まで戻し
300Jは OK（MEMO スイッチ）
300JLは OK（PICK UP スイッチ）
を押します。



ピッ!

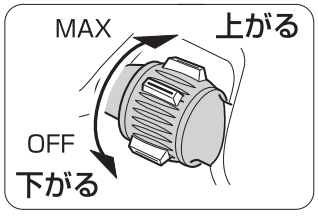
8



注意
- 糸を全部巻き込まないようにしてください。手前でジョグパワーレバーをOFFの位置にし、ハンドルで残りのラインを巻いてください。巻き込みますとカウンター誤差の原因になります。
- この入力方法はPE2号未満の細糸は入力することができません。
- PE2号を巻く場合、スプール外径近くまで巻くと、スプールとフレームの間にPE糸が入り込む恐れがありますので、スプール外径から1mm程度少なめに巻く事をお勧めします。

9.ジョグパワーレバーで、道糸の長さを選択し、
300Jは OK（MEMO スイッチ）
300JLは OK（PICK UP スイッチ）
を押します。

※図は、400mにセットした場合です。
※初期設定値は、300mです。
※セットする数値は、10m単位です。



9



10.入力完了画面が表示されたら
300Jは OK（MEMO スイッチ）
300JLは OK（PICK UP スイッチ）
を押し、水深画面へ戻り、入力を終了します。

10



※入力エラー画面が表示された場合は、
300Jは OK（MEMO スイッチ）
300JLは OK（PICK UP スイッチ）
を押し、水深画面へ戻り、最初からやり直してください。



機能設定の基本操作「2.道糸入力」 P2 下巻入力

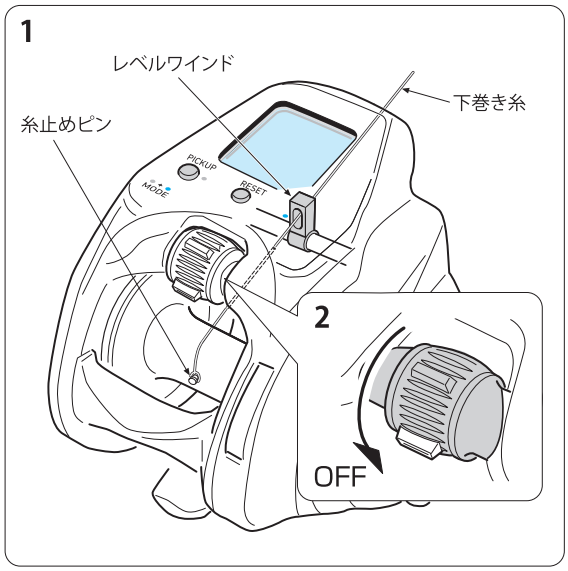
長さのわかる道糸が100m以上必要です。

⚠ やけどに注意!

道糸入力の際は、モーターが過熱しフレームが非常に熱くなりますので手で直接フレームを触らないでください。濡らしたタオル等をフレームに当てて入力をお願いします。

1.下巻用の糸をレベルワインドに通してスプールに結んでください。

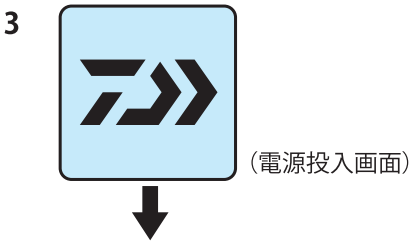
※付属の糸通しピンを使うと簡単に通せます。
※スプール面での糸滑り防止のため、必ず糸止めピンに糸を結んでください。
※ドラグを締め付けてください。
※既に下巻が完了している場合は、そのまま次へ進んでください。



2.ジョグパワーレバーをOFFまで戻します。

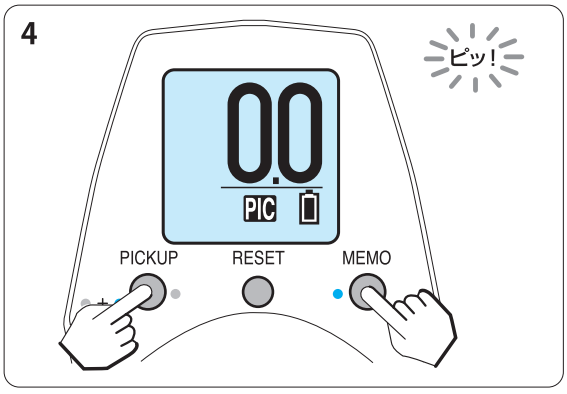
3.リールを通電させてください。

※接続方法については P.8「電源とのつなぎ方」を参照ください。



4.表示が 0.0 のときに MEMO スイッチと PICK UP スイッチを同時に2秒間押し続けてください。

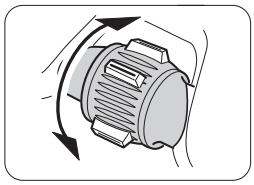
※図は300J
(300JLはPICK UPとMEMOが逆になります。)



(水深画面)

機能設定の基本操作「2.道糸入力」 P2 下巻入力

5.ジョグパワーレバーで「道糸入力」を選択し
300Jは OK（MEMO スイッチ）
300JLは OK（PICK UP スイッチ）
を押します。



※ジョグパワーレバーを動かすことで選択項目が反転表示されます。

※《実行しますか?》が流れ文字として表示されるので、ふたたび
300Jは OK（MEMO スイッチ）
300JLは OK（PICK UP スイッチ）
を押します。

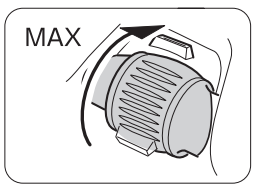
6.「下巻 P2」を選択し
300Jは OK（MEMO スイッチ）
300JLは OK（PICK UP スイッチ）
を押します。

7.下巻用の糸を巻き、巻き終えたら
300Jは OK（MEMO スイッチ）
300JLは OK（PICK UP スイッチ）
を押します。

※既に下巻が完了している場合は、そのまま
300Jは OK（MEMO スイッチ）
300JLは OK（PICK UP スイッチ）
を押します。

8.上糸をしっかり結びます。

9.テンションを調整して、ジョグパワーレバーをMAXの位置まで倒し、糸色に注意しながら残り100mになるまで道糸を巻きます。



※巻上中、▼ がなるべく画面中央にくるようにテンションを調整してください。

5



（メニュー画面）



6



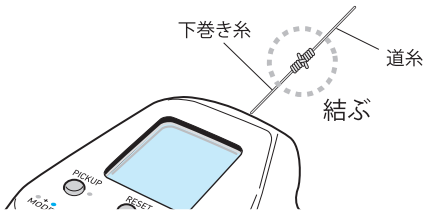
（下巻入力画面）

7



（下巻巻上画面）

8



9



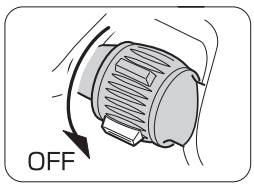
（道糸巻上画面）

機能設定の基本操作「2.道糸入力」 P2 下巻入力

注意

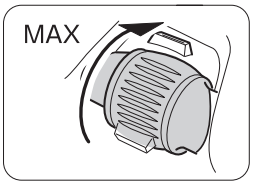
・フィンガーガードやフレームに糸があたると、リールが傷つくことがあります。
糸があたらないようにご注意ください。
・屋内で低速・高テンションで長時間かけて糸を巻くと、モーターが異常に過熱し故障の原因になります。ジョグパワーレバーをMAXにして入力を行ってください。また、実釣時には海水等で冷却されますのでご心配ございません。

10.巻き終えたらジョグパワーレバーをOFFの位置まで戻し
300Jは OK（MEMO スイッチ）
300JLは OK（PICK UP スイッチ）
を押します。





11.テンションを調整して、ジョグパワーレバーをMAXの位置まで倒し、糸色に注意しながら50m道糸を巻いてください。



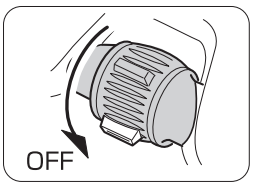
※巻上中、▼ がなるべく画面中央にくるようにテンションを調整してください。

11



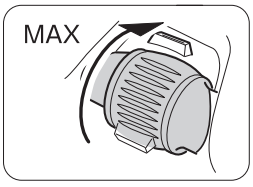
（道糸巻上画面）

12.巻き終えたらジョグパワーレバーをOFFの位置まで戻し
300Jは OK（MEMO スイッチ）
300JLは OK（PICK UP スイッチ）
を押します。



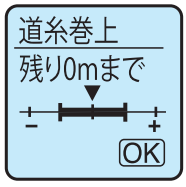


13.テンションを調整して、ジョグパワーレバーをMAXの位置まで倒し、糸色に注意しながら最後まで道糸を巻いてください。



※巻上中、▼ がなるべく画面中央にくるようにテンションを調整してください。

13



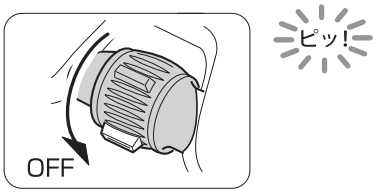
（道糸巻上画面）

機能設定の基本操作「2.道糸入力」 P2 下巻入力

注意

・糸を全部巻き込まないようにしてください。手前でジョグパワーレバーをOFFの位置にし、ハンドルで残りのラインを巻いてください。巻き込みますとカウンター誤差の原因になります。
・この入力方法はPE1号未満の細糸は入力することができません。
・PE1～2号を巻く場合、スプール外径近くまで巻くと、スプールとフレームの間にPE糸が入り込む恐れがありますので、スプール外径から1mm程度少なめに巻く事をお勧めします。

14.巻き終えたらジョグパワーレバーをOFFの位置まで戻し
300Jは OK（MEMO スイッチ）
300JLは OK（PICK UP スイッチ）
を押します。



15.入力完了画面が表示されたら
300Jは OK（MEMO スイッチ）
300JLは OK（PICK UP スイッチ）
を押し、水深画面へ戻り、入力を終了します。

15



※入力エラー画面が表示された場合は、
300Jは OK（MEMO スイッチ）
300JLは OK（PICK UP スイッチ）
を押し、水深画面へ戻り、最初からやり直してください。



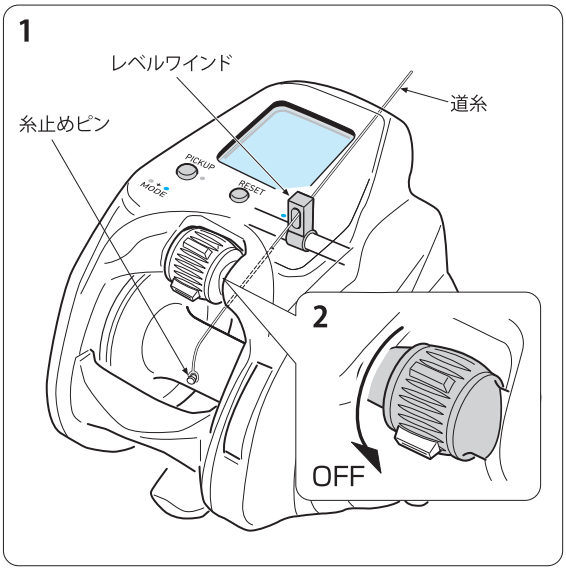
機能設定の基本操作「2.道糸入力」 P3 引出入力

道糸を巻き終わった状態から引き出して再入力する時に便利な方法です。ただし長さのわかる道糸が100m以上必要です。

1.道糸をレベルワインドに通してスプールに結んでください。

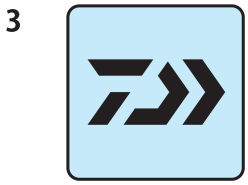
※付属の糸通しピン（P.12参照）を使うと簡単に通せます。
※スプール面での糸滑り防止のため、必ず糸止めピンに糸を結んでください。
※ドラグを締め付けてください。

2.ジョグパワーレバーをOFFまで戻します。



3.リールを通電させてください。

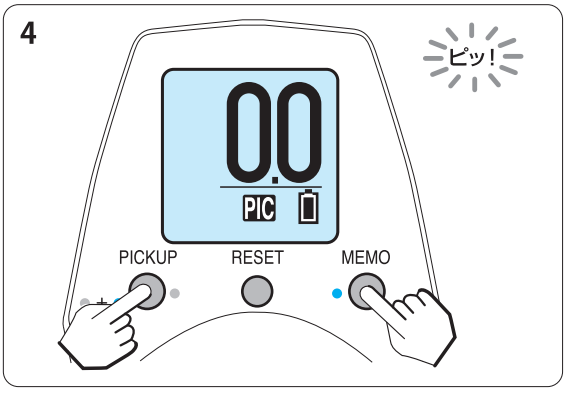
※接続方法についてはP.8「電源とのつなぎ方」を参照ください。



（電源投入画面）

4.表示が 0.0 のときに MEMO スイッチ と PICK UP スイッチ を同時に2秒間押し続けてください。

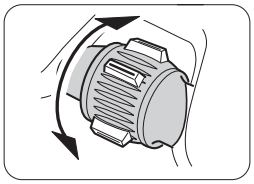
※図は300J
（300JLはPICK UPとMEMOが逆になります。）



（水深画面）

機能設定の基本操作「2.道糸入力」 P3 引出入力

5.ジョグパワーレバーで「道糸入力」を選択し
300Jは OK（MEMO スイッチ）
300JLは OK（PICK UP スイッチ）
を押します。

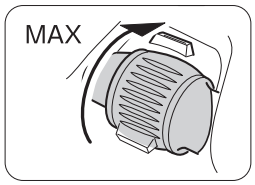


※ジョグパワーレバーを動かすことで選択項目が反転表示されます。

※《実行しますか?》が流れ文字として表示されるので、ふたたび
300Jは OK（MEMO スイッチ）
300JLは OK（PICK UP スイッチ）
を押します。

6.「引出 P3」を選択し
300Jは OK（MEMO スイッチ）
300JLは OK（PICK UP スイッチ）
を押します。

7.テンションを調整して、ジョグパワーレバーをMAXの位置まで倒し道糸を巻きます。



※巻上中、▼がなるべく画面中央にくるようにテンションを調整してください。

※既に道糸巻上が完了している場合は、そのまま
300Jは OK（MEMO スイッチ）
300JLは OK（PICK UP スイッチ）
を押します。

5



（メニュー画面）



6



（道糸入力画面）

7



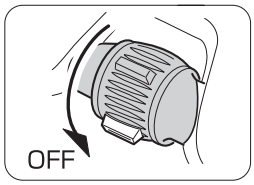
（張力ﾒｰﾀｰ画面）

注意

・フィンガーガードやフレームに糸があたると、リールが傷つくことがあります。糸があたらないようにご注意ください。
・屋内で低速・高テンションで長時間かけて糸を巻くと、モーターが異常に過熱し故障の原因になります。パワーレバーをMAXにして入力を行ってください。また、実釣時には海水等で冷却されますのでご心配ございません。

機能設定の基本操作「2.道糸入力」 P3 引出入力

8.巻き終えたらジョグパワーレバーをOFFの位置まで戻し
300Jは OK（MEMO スイッチ）
300JLは OK（PICK UP スイッチ）
を押します。



ピッ!

9.糸色に注意しながら50m引き出して、
300Jは OK（MEMO スイッチ）
300JLは OK（PICK UP スイッチ）
を押します。

9



（道糸引出画面）

10.糸色に注意しながら50m引き出して、
300Jは OK（MEMO スイッチ）
300JLは OK（PICK UP スイッチ）
を押します。

10



（道糸引出画面）

11.入力完了画面が表示されたら
300Jは OK（MEMO スイッチ）
300JLは OK（PICK UP スイッチ）
を押し、水深画面へ戻り、引出した糸を巻き取って完了です。

11



※入力エラー画面が表示された場合は、
300Jは OK（MEMO スイッチ）
300JLは OK（PICK UP スイッチ）
を押し、水深画面へ戻り、最初からやり直してください。



注意

- 糸を全部巻き込まないようにしてください。手前でジョグパワーレバーをOFFの位置にし、ハンドルで残りのラインを巻いてください。巻き込みますとカウンター誤差の原因になります。
- この入力方法はPE1号未満の細糸は入力することができません。
- PE1～2号を巻く場合、スプール外径近くまで巻くと、スプールとフレームの間にPE糸が入り込む恐れがありますので、スプール外径から1mm程度少なめに巻く事をお勧めします。

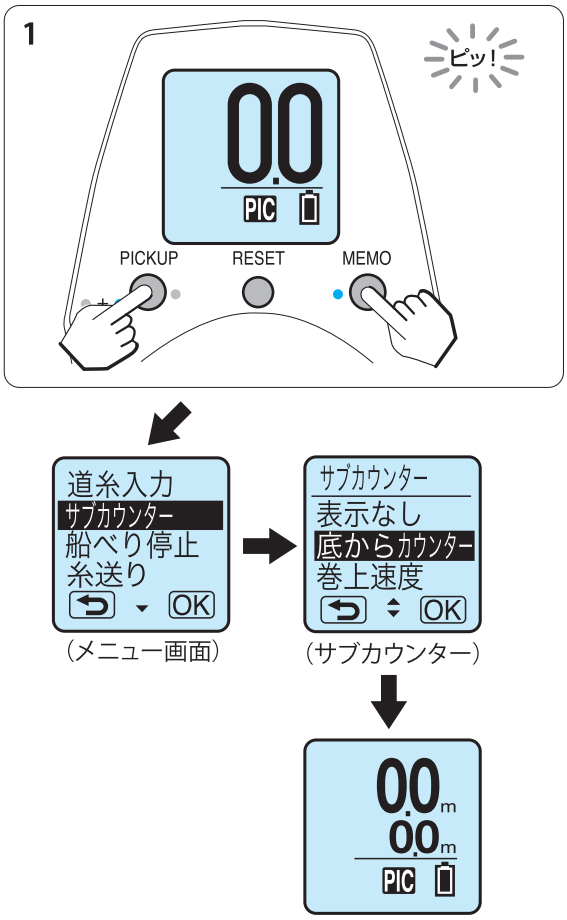
機能設定の基本操作「3.サブカウンター」

水深カウンターの下にもう一つのカウンターを表示することができます。
表示内容は「底からカウンター」、「巻上速度」、「巻上残り時間」の3つから選択できます。
※初期設定では、サブカウンターは「表示なし」となっています。

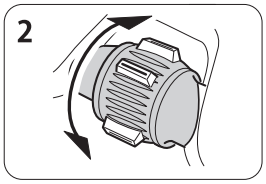
●底からカウンター

上からも底からも測れる2つのカウンターが棚を両面攻撃。

1. MEMO スイッチと PICK UP スイッチを同時に2秒間押してメニュー画面にしてください。
※図は300J
（300JLはPICK UPとMEMOが逆になります。）



2.ジョグパワーレバーで「サブカウンター」を選択し
300Jは OK（MEMO スイッチ）
300JLは OK（PICK UP スイッチ）
を押し、さらにジョグパワーレバーで
「底からカウンター」を選択し
300Jは OK（MEMO スイッチ）
300JLは OK（PICK UP スイッチ）
を押します。



3.水深カウンターの下に底からカウンターが表示されます。

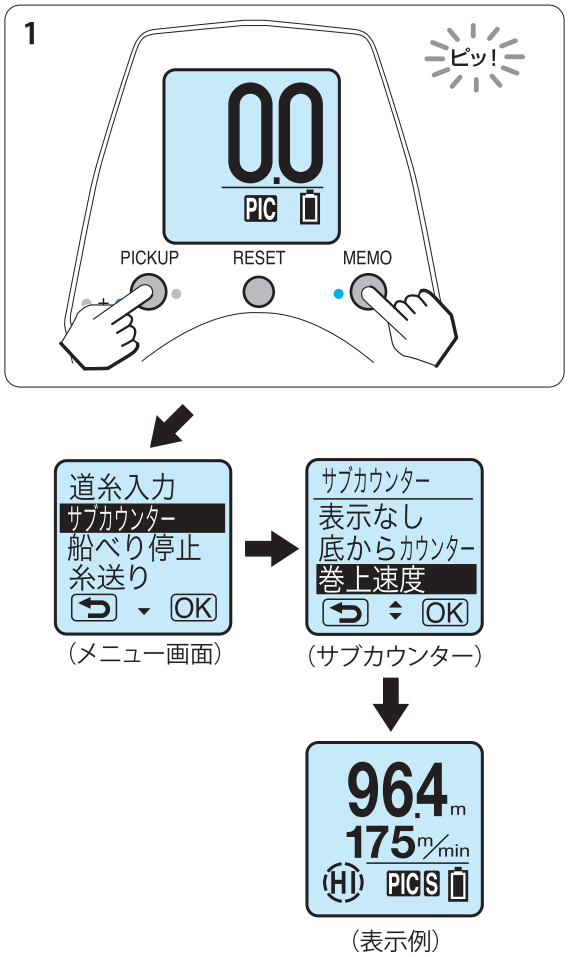
4.仕掛けを投入して、底や狙いの棚など任意の位置で MEMO スイッチを押すことで、底からカウンターが 0.0 になり、その地点を基準にカウンターが動きます。

機能設定の基本操作「3.サブカウンター」

●巻上速度表示

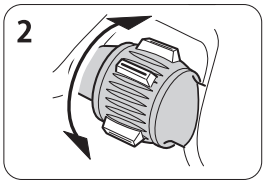
電動で巻上げた時に巻上スピード実測値を表示します。

1. MEMO スイッチ と PICK UP スイッチ を同時に2秒間押してメニュー画面にしてください。
※図は300J
（300JLはPICK UPとMEMOが逆になります。）



（メニュー画面）
（サブカウンター）
（表示例）

2.ジョグパワーレバーで「サブカウンター」を選択し
300Jは OK（ MEMO スイッチ）
300JLは OK（ PICK UP スイッチ）
を押し、さらにジョグパワーレバーで
「巻上速度」を選択し
300Jは OK（ MEMO スイッチ）
300JLは OK（ PICK UP スイッチ）
を押します。



3.水深カウンターの下に、巻上速度が表示されます。

※電動巻上を行なっている時のみ表示されます。

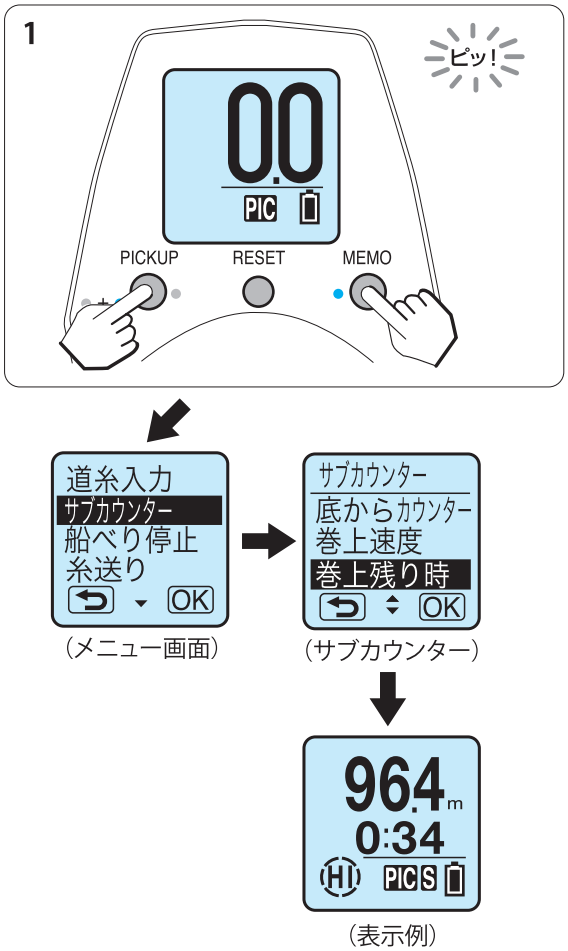
機能設定の基本操作「3.サブカウンター」

●巻上残り時間表示

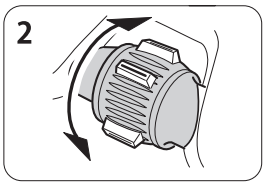
電動巻上中に、船べり停止位置までの残り時間を目安として表示します。
※巻上速度の変動により、誤差が生じる場合があります。

1. MEMO スイッチ と PICK UP スイッチ を同時に2秒間押してメニュー画面にしてください。

※図は300J
（300JLはPICK UPとMEMOが逆になります。）



2.ジョグパワーレバーで「サブカウンター」を選択し
300Jは OK (MEMO スイッチ)
300JLは OK (PICK UP スイッチ)
を押し、さらにジョグパワーレバーで
「巻上残り時間」を選択し
300Jは OK (MEMO スイッチ)
300JLは OK (PICK UP スイッチ)
を押します。



3.水深カウンターの下に、巻上残り時間が表示されます。

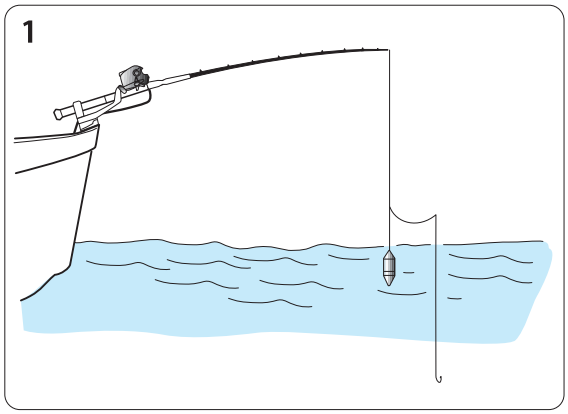
※電動巻上を行なっている時のみ表示されます。

機能設定の基本操作「4.釣りを始める前に」

●水面ゼロ設定

釣りを始める前に必ず行ってください。正確な棚取りが行えます。

1.コードをつなぎ、糸を出し、仕掛けをセットします。



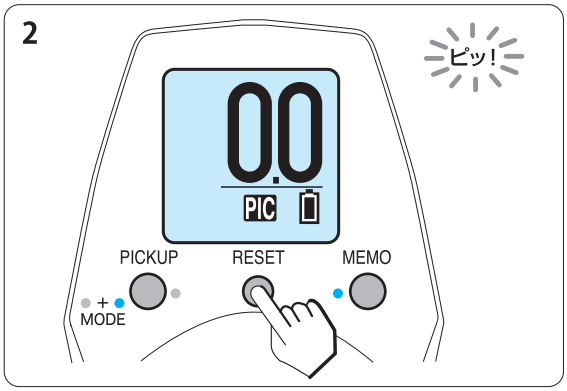
2.竿を出し、仕掛けが水面にある時に
RESET スイッチを押します。

表示が 0.0 mになり S（船止）が点灯しセット完了です。

電動巻上の際、船べり2m手前で自動停止するようになります。

※水面ゼロ設定をしていない場合は、安全のため、船べり5mで自動停止します。

※船べり停止後は、誤操作による竿巻き込み防止のためジョグパワーレバーでは巻き上げしません。



⚠注意

- 新しい糸を巻いたときや、大物を掛けたときは糸の伸びにより船べり停止位置がずれることがあります。そのときは再度水面0セットを行なってください。
- 船のゆれやオモリの号数によっては、停止位置が多少オーバーランすることがあります。その時は、設定値を増加させてご使用ください。
- 水深100m以上で負荷の変動が大きい時は、停止位置のズレにより仕掛けを巻き込み、ロッドを破損する恐れがあります。このような釣りの際は、船べり停止位置を余裕を持って設定してください。

●道糸が切れてしまったら

・道糸が切れてしまった場合、糸切れ修正を行なってください。
切れたライン分のラインデータを修正します。通電状態のまま竿先まで巻き上げ、
RESET スイッチ を2秒以上押してください。表示が 0.0 になれば完了です。

※上記の作業によってラインデータが上書き（修正）されます。

※糸切れした場合のデータ修正以外は、カウンター誤差の原因になりますので、
RESET スイッチ の長押しはしないでください。

機能設定の基本操作「5.船べり停止」

●えらべる船べり自動停止

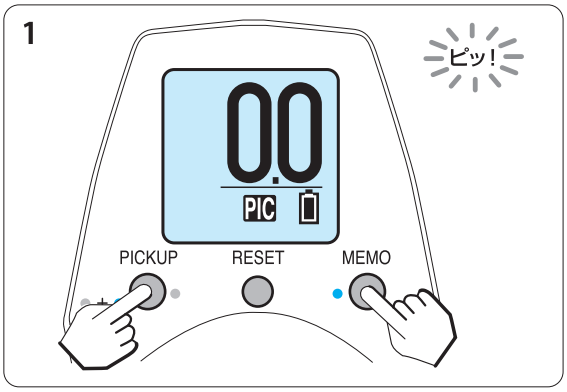
船べり停止位置が思いのまま、さらに手返しラクラク。

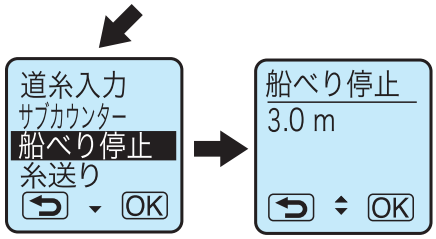
・えらべる船べり自動停止は、RESET スイッチ を押した位置より1m～5mの範囲内で船べり停止位置を任意に選んでセットすることができます。（10cm単位）
特にコマセ釣りの場合は、船べり停止し、ロッドを立てればビシが手元にくるよう、えらべる船べり自動停止位置をセットすれば手返しに大変便利です。
ただし、安全のため船べり停止位置は1m未満には設定できないようになっています。
・糸ののびにより船べり自動停止位置が下にズレてくるように感じることがあります。そのときは、再度、水面ゼロ設定をやり直してください。
・船べり停止位置付近では、安全のためジョグパワーレバーでの操作がきかない場合があります。

えらべる船べり自動停止は、メニュー画面から設定する方法と水深画面で設定する方法の2種類のやり方があります。

●メニュー画面から設定する方法

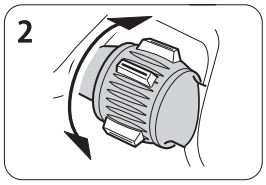
1. MEMO スイッチ と PICK UP スイッチ を同時に2秒間押してメニュー画面にしてください。
※図は300J
（300JLはPICK UPとMEMOが逆になります。）



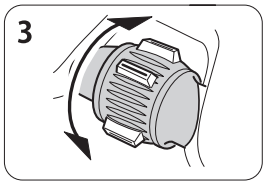


（メニュー画面）　（表示例）

2.ジョグパワーレバーで「船べり停止」を選択し
300Jは OK（MEMO スイッチ）
300JLは OK（PICK UP スイッチ）
を押します。



3.ジョグパワーレバーで任意の船べり停止位置を選択し
300Jは OK（MEMO スイッチ）
300JLは OK（PICK UP スイッチ）
を押して水深画面へ戻ります。



※水面ゼロ設定をしていない場合は、えらべる船べり自動停止は設定できません。先に水深ゼロ設定を行なってください。

4.仕掛けを投入して、電動巻上を行なうと、設定した位置で自動停止するようになります。

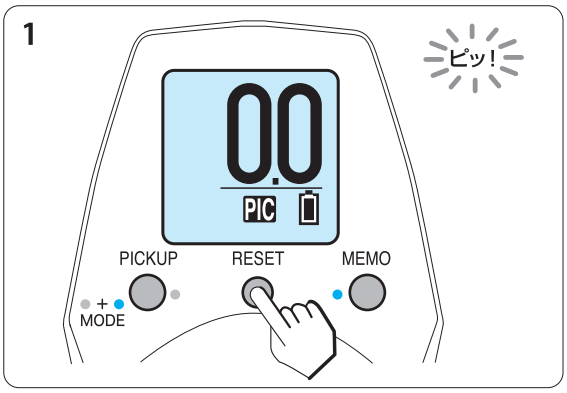
機能設定の基本操作「5.船べり停止」

●水深画面から設定する方法

1.リールを通電し、水面に仕掛けがある時に RESET スイッチ を押します。
（水面ゼロ設定）

表示が 0.0 mになります。

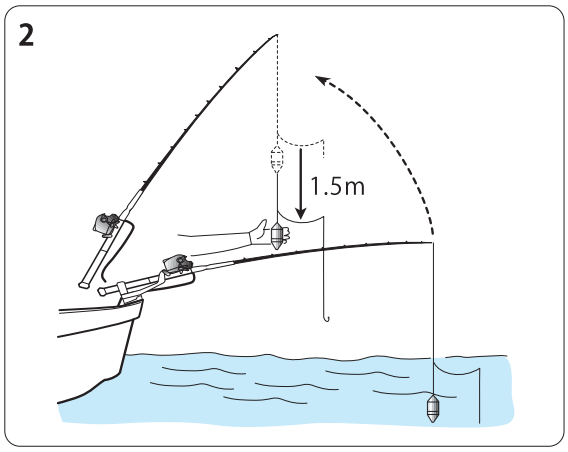
※図は300J
（300JLはPICK UPとMEMOが逆になります。）



2.ロッドを立てて、仕掛けの取りやすい位置や、取り込みのしやすい位置まで糸を出します。

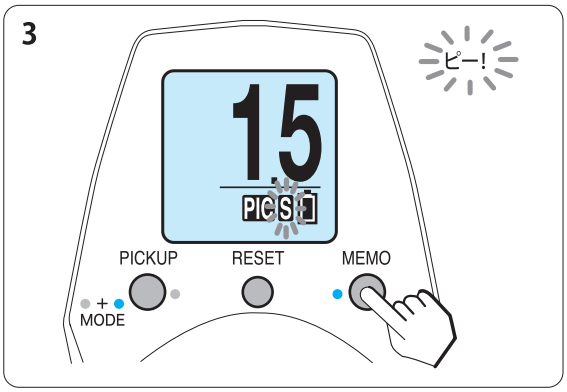
図の場合は1.5m

便利
コマセ釣りの場合
・竿を立てたときビシがちょうど手元にくるように設定すれば、手返しに大変便利です。



3.その位置で MEMO スイッチ
を約2秒間押し続けます。

S（船止）が点滅すれば、セット完了です。
※船べり自動停止の初期設定は2.0mです。
（ RESET スイッチを押さない場合は、5.0mで止まります。）
※設定が完了すると、S（船止）ランプが点滅します。
※図は300J
（300JLはPICK UPとMEMOが逆になります。）



4.仕掛けを回収する時は、設定値で自動で電動巻上げを停止しますので、ロッドを立てれば仕掛けが手元に来ます。

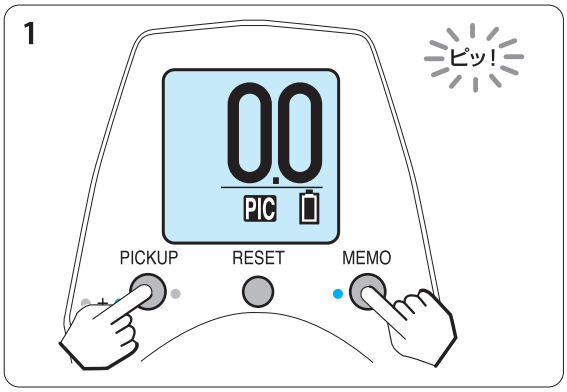
機能設定の基本操作「6.糸送り機能」

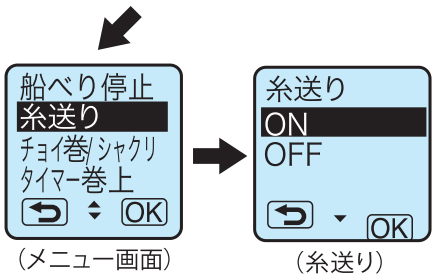
●糸送り機能

モーターギアが逆転し、スプールが糸の出る方向に回って糸の出を補助します。

●糸送り

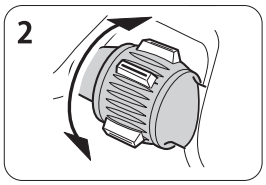
1. MEMO スイッチと PICK UP スイッチを同時に2秒間押してメニュー画面にしてください。
※図は300J
（300JLはPICK UPとMEMOが逆になります。）





（メニュー画面）　（糸送り）

2.ジョグパワーレバーで「糸送り」を選択し
300Jは OK（MEMO スイッチ）
300JLは OK（PICK UP スイッチ）
を押し、さらにジョグパワーレバーで「ON」を選択し
300Jは OK（MEMO スイッチ）
300JLは OK（PICK UP スイッチ）
を押してセット完了です。



・クラッチをOFFにして仕掛けを投入すると、糸送り機能が船べり停止位置プラス2.5mから作動します。
・仕掛け落下によるスプール回転の速度に応じて糸送り出力を自動調整します。
・糸送り中にジョグパワーレバーが動いた場合は、糸送りを中止します。
・バックラッシュ等で一定時間以上糸送りが止まると、再スタートしません。
・糸送りがONに設定されているとき、クラッチOFFすると FRE（糸送）が表示されます。
・糸送り作動時は FRE 表示が点滅します。

⚠注意
・糸送り（モーター作動）中にクラッチをONにすると、糸が巻き込むときがあります。
・船の上下動が激しい場合や風が強い場合に糸送り設定がONで仕掛け投入するとバックラッシュが発生しやすくなり、スムーズな仕掛落下を阻害することがあります。
・フカセモードONの状態で糸送り設定をONにするとフカセモードは自動的にOFFになります。

機能設定の基本操作「7.チョイ巻き/チョイ止め」

●チョイ巻き

PICK UP スイッチ を押している間だけ電動リールに巻取りをさせることができる便利な機能です。チョイ巻きの速さは初期設定では15ですが、メニュー画面で変更することができます。

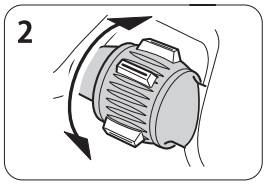
●チョイ止め

電動巻上げをしている時、PICK UP スイッチを押している間だけ電動巻上げを止めることができる便利な機能です。スイッチを放せばジョグパワーレバーの位置の速度で巻上げを始めます。

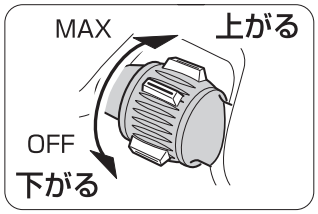
●チョイ巻き/チョイ止め設定方法

1. MEMO スイッチ と PICK UP スイッチ を同時に2秒間押してメニュー画面にしてください。
※図は300J
（300JLはPICK UPとMEMOが逆になります。）

2.ジョグパワーレバーで「チョイ巻/シャクリ」を選択し
300Jは OK（MEMO スイッチ）
300JLは OK（PICK UP スイッチ）
を押し、さらにジョグパワーレバーで
「チョイ巻」を選択し
300Jは OK（MEMO スイッチ）
300JLは OK（PICK UP スイッチ）
を押します。

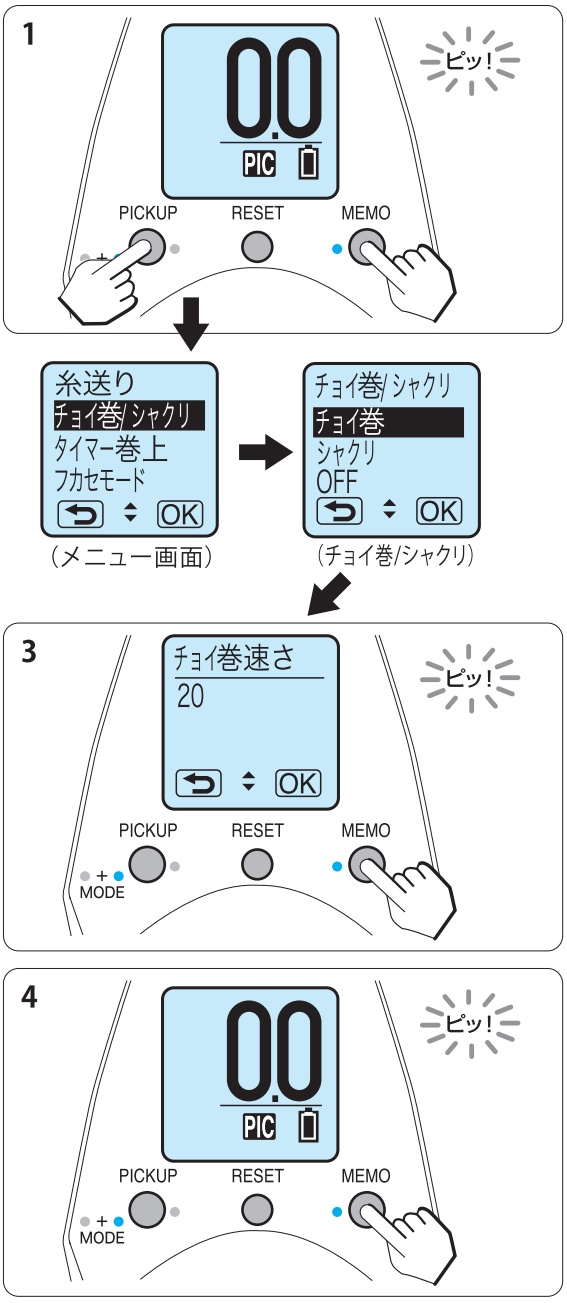


3.ジョグパワーレバーでスピードを設定します。



設定値は0～Hiまでです。（図は20に設定した場合）
1～Hiにセットするとチョイ巻き、0にセットするとチョイ止めになります。

4. 300Jは OK（MEMO スイッチ）
300JLは OK（PICK UP スイッチ）
を押し、水深画面に戻せばセット完了です。



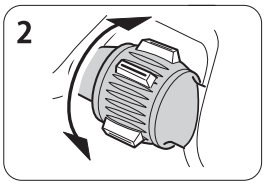
機能設定の基本操作「8.シャクリ」

●シャクリ

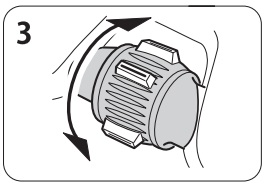
電動リールにシャクリ（さそい）をさせる便利な機能です。設定後、
PICK UP スイッチを押せばシャクリがスタートします。

1. MEMO スイッチ と PICK UP スイッチ を同時に2秒間押してメニュー画面にしてください。
※図は300J
（300JLはPICK UPとMEMOが逆になります。）

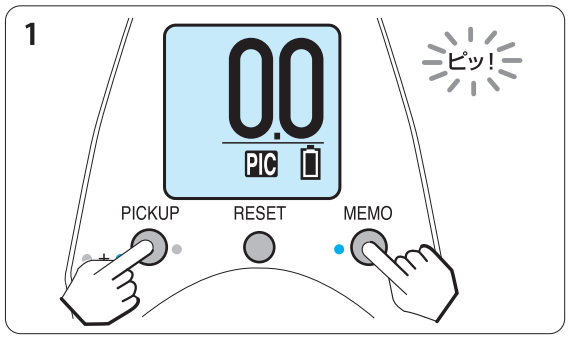
2.ジョグパワーレバーで「チョイ巻/シャクリ」を選択し
300Jは OK（MEMO スイッチ）
300JLは OK（PICK UP スイッチ）
を押し、さらにジョグパワーレバーで「シャクリ」を選択し
300Jは OK（MEMO スイッチ）
300JLは OK（PICK UP スイッチ）
を押します。

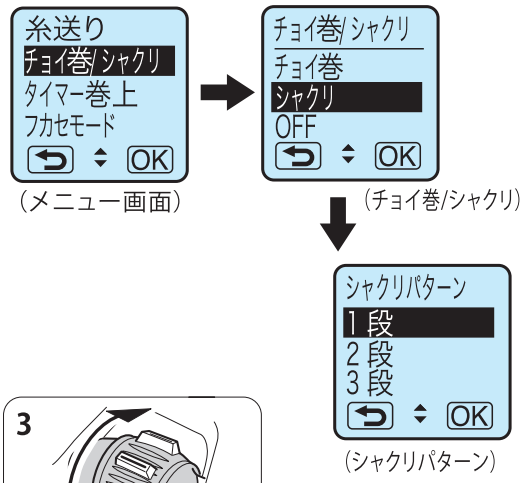


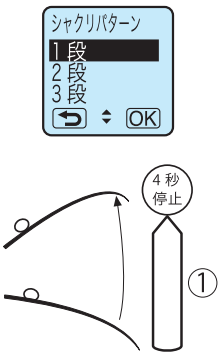
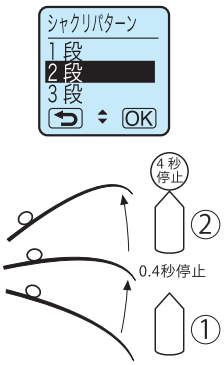
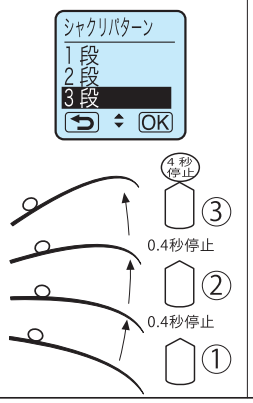
3.ジョグパワーレバーで「シャクリパターン」を選択し
300Jは OK（MEMO スイッチ）
300JLは OK（PICK UP スイッチ）
を押します。



1回のシャクリの長さを「何段」でシャクリをさせるかが選べます。





1段シャクリ	2段シャクリ	3段シャクリ	ランダムシャクリ
			
			ランダムシャクリとは、1～3段のシャクリをＩＣがひとシャクリごとに自動選択して誘い続けるシステム。まさに変幻自在のシャクリ機構です。

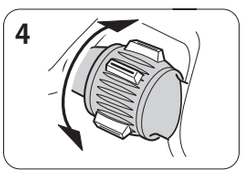
※図は竿でシャクリを表していますが、実際にはリールが巻き上げてシャクリをします。

※図は300J
（300JLはPICK UPとMEMOが逆になります。）

機能設定の基本操作「8.シャクリ」

4.ジョグパワーレバーでシャクリの長さを設定し、
300Jは OK（MEMO スイッチ）
300JLは OK（PICK UP スイッチ）
を押します。

1回のシャクリの「長さ」を選べます。（オモリの号数や、シャクリのスピードによっては、多少長さがオーバーランすることがあります）
※シャクリの長さは0.1m～10.0mの範囲で設定できます。



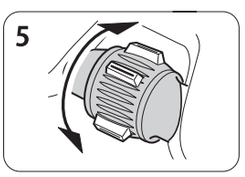


（表示例）

5.ジョグパワーレバーでシャクリの速さを設定し、
300Jは OK（MEMO スイッチ）
300JLは OK（PICK UP スイッチ）
を押します。

シャクリを行う「速さ」を選べます。

・シャクリ速さを1～Hiの範囲で設定した場合、その速さで巻上げます。
・シャクリ速さを0に設定した場合、ジョグパワーレバーで速さを調整できます。

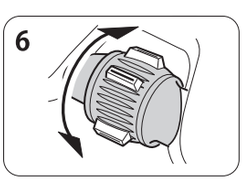




（表示例）

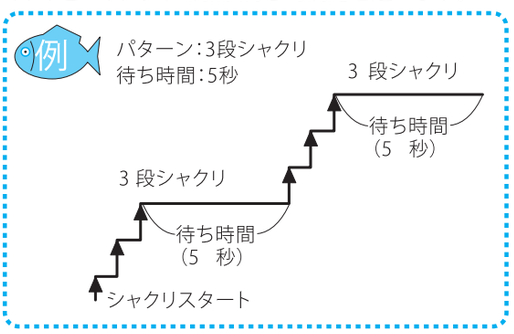
6.ジョグパワーレバーでシャクリ間隔を設定し、
300Jは OK（MEMO スイッチ）
300JLは OK（PICK UP スイッチ）
を押します。

シャクリとシャクリの「間隔（待ち時間）」を選べます。





（表示例）

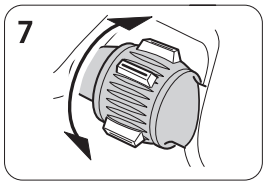


注意

・「シャクリ」の「秒数」より「タイマー巻き上げ時間」の設定が短いときは、「タイマー巻き上げ時間」を優先させて作動します。

機能設定の基本操作「8.シャクリ」

7.ジョグパワーレバーでシャクリ範囲を設定し、300Jは OK（MEMO スイッチ）300JLは OK（PICK UP スイッチ）を押し、水深画面へ戻りセット完了です。





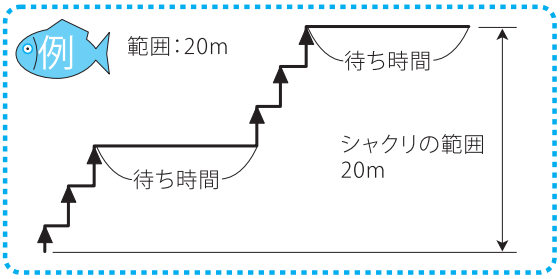
（表示例）



シャクリの「範囲」を選べます。

※範囲をOFFに設定した場合は、船べり停止位置までシャクリを行います。

※範囲を設定した場合は、その間だけシャクリを行います。



8.仕掛け投入後、PICK UP スイッチ を押すと、シャクリがスタートします。

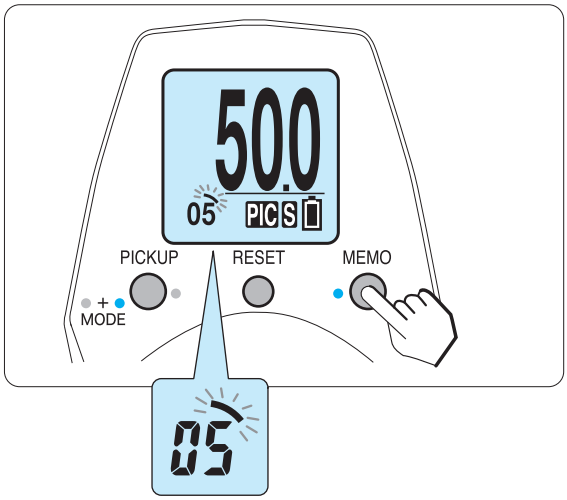
・巻上げ中は JIG（シャクリ）が点滅します。
・シャクリ速さを「0」に設定した場合には、シャクリの速さはジョグパワーレバーで調整してください。
・シャクリ中に PICK UP スイッチ を押すと、シャクリが止まります。

機能設定の基本操作「9.タイマー」

●タイマー

毎回、仕掛け投入経過時間をズバリ表示。手返しペースを作るのにとっても便利。

・仕掛け投入開始からの経過時間を表示します。コマセ振りや仕掛け回収のタイミングを測る目安になります。
・タイマーは仕掛け投入後、水面カウンター7.0mよりオートスタートします。



※1分以内は秒単位、1分以上は分単位で表示されます。
※タイマー機能は解除できません。
※タイマーを正しくお使いいただくために、仕掛けを船べり自動停止位置まで巻き取ってから次の投入をしてください。

注意
・途中で MEMO スイッチ を押した場合は、タイマー表示が 0 からスタートします。

機能設定の基本操作「10.タイマー巻上」

●タイマー巻上

初心者もプロの手返し！待ち時間をセットすればリールが自動で巻上げてくれるから、より効率の良い釣りが簡単にできます。

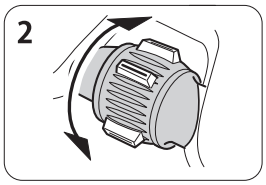
・1回の投入の待ち時間を5分とリールに設定すれば、タイマーがスタートした時点より5分たてば、自動的にリールが手返しのため高速で仕掛けを巻き上げます。

---

1. MEMO スイッチ と PICK UP スイッチ を同時に2秒間押してメニュー画面にしてください。

※図は300J
（300JLはPICK UPとMEMOが逆になります。）

2.ジョグパワーレバーで「タイマー巻上」を選択し
300Jは OK（MEMO スイッチ）
300JLは OK（PICK UP スイッチ）
を押します。



3.ジョグパワーレバー操作で手返しの待ち時間（分）を選択します。

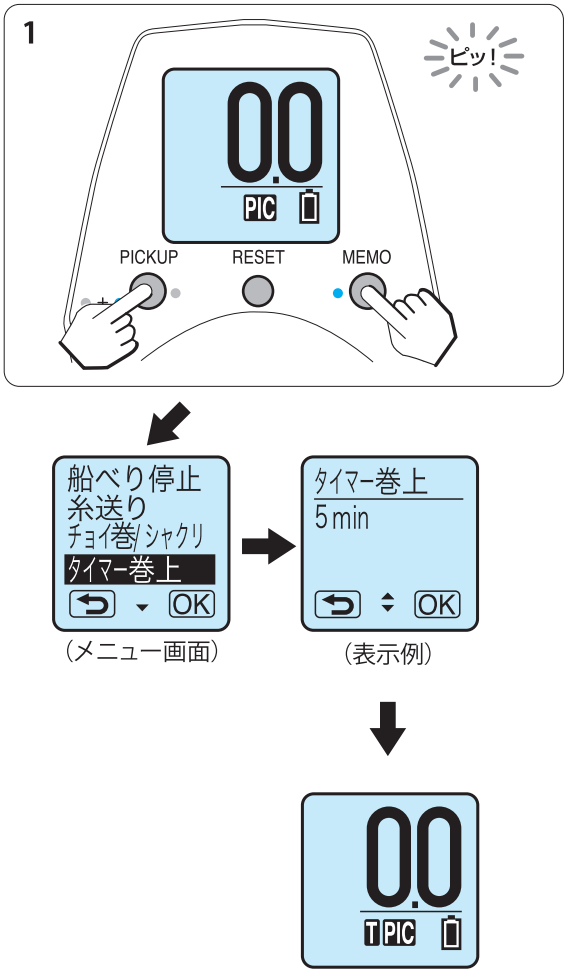
レバーを上げると数値が上がり、手前に引くと数値が下がります。
（図は待ち時間を5分にセットした場合です。）

4. 300Jは OK（MEMO スイッチ）
300JLは OK（PICK UP スイッチ）
を押して、水深画面に戻ったらセット完了です。

画面に T（タイマー）が点灯します。

5.仕掛け投入後、クラッチをONにした状態で、設定した時間がくると、自動的にMAXスピードで仕掛けを巻き上げます。

・巻き上げ前にアラームが鳴ってお知らせします。
・クラッチがOFFの場合は、自動巻上は行ないません。
・タイマーは仕掛け投入7.0mより自動スタートします
MEMO スイッチ を押すことで、リセットし、再スタートします。
・タイマー巻上を正しくお使いいただくため、仕掛けが棚に到達した時点で MEMO スイッチ を押してください。

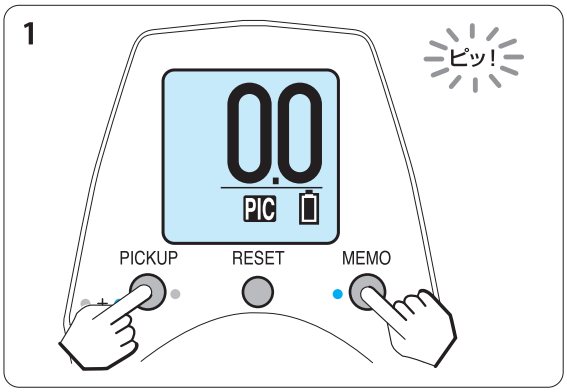


（メニュー画面）　（表示例）

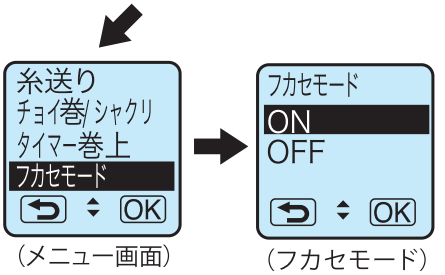
機能設定の基本操作「11.フカセモード」

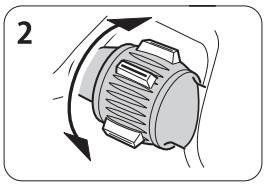
●フカセモードの使い方

1. MEMO スイッチ と PICK UP スイッチ を同時に2秒間押してメニュー画面にしてください。
※図は300J
（300JLはPICK UPとMEMOが逆になります。）



2.ジョグパワーレバーで「フカセモード」を選択し
300Jは OK（MEMO スイッチ）
300JLは OK（PICK UP スイッチ）
を押し、さらにジョグパワーレバーで「ON」を選択し
300Jは OK（MEMO スイッチ）
300JLは OK（PICK UP スイッチ）
を押します。

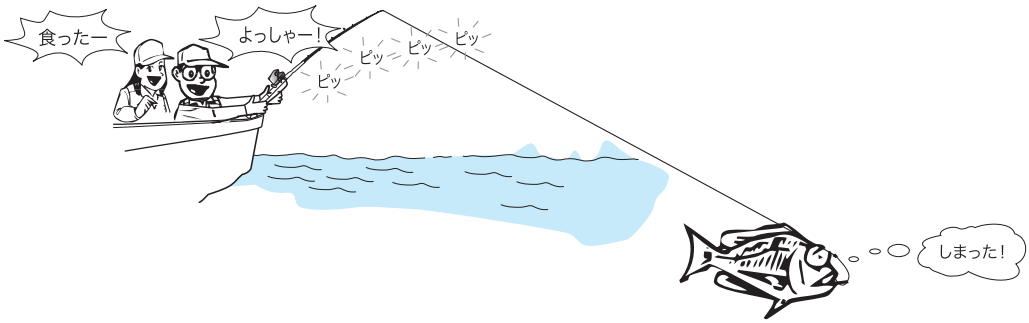




3.ジョグパワーレバーでアタリアラームの設定のON/OFFを選択し
300Jは OK（MEMO スイッチ）
300JLは OK（PICK UP スイッチ）
を押します。



設定した感度より速い動きを感知すると、アタリアラームが鳴り、アタリを音で知らせてくれますので、目をはなした時でも音でアタリが分かります。



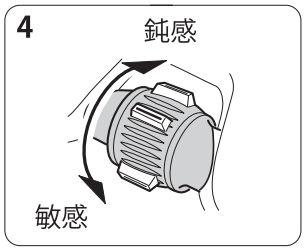
※アタリアラームをOFFにすれば、アラームは鳴りません。

機能設定の基本操作「11.フカセモード」



（表示例）

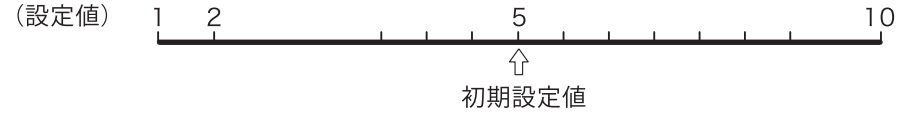
4.ジョグパワーレバーでアタリ感度を選択し、
300Jは OK（MEMO スイッチ）
300JLは OK（PICK UP スイッチ）
を押します。



・アタリを検知する感度を設定できます。
潮の速さ、波の大きさ等の海の状況に応じて調整してください。

← 感度を敏感にする
（よりアラームが鳴りやすくなります）

感度を鈍感にする →
（よりアラームが鳴りにくくなります）

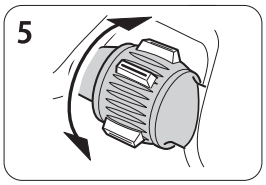


・設定範囲は1～10まで可能です。



（表示例）

5.ジョグパワーレバーでフカセクリックの設定のON/OFFを選択し
300Jは OK（MEMO スイッチ）
300JLは OK（PICK UP スイッチ）
を押して完了します。



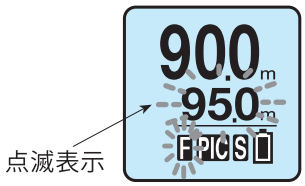
・フカセクリックをONにすると、1m糸が出るたびにアラーム音が鳴り、潮の流れ（糸の出る速度）を音で確認することができます。
・水深7mよりスタートします。
・フカセモードの設定が完了すると、水深画面に F が表示されます。
・フカセモードでは、自動で上下2段の水深表示に切換わります。
※フカセモードONの状態で、メニュー画面サブカウンターの設定を変更しても反映されません。



●釣りタナメモリー

・アタリアラームが鳴ったタナをオートメモリーする機能です。慌ててやりとりに入っても底からカウンターにアタリアラームが鳴ったタナを点滅表示しているので、釣れタナを確認することができます。

※ MEMO スイッチを押すと、釣れタナメモリーの水深が 0.0 として換算表示されます。
※メモリーされたタナより浅い場合は船べり停止するまで更新されません。



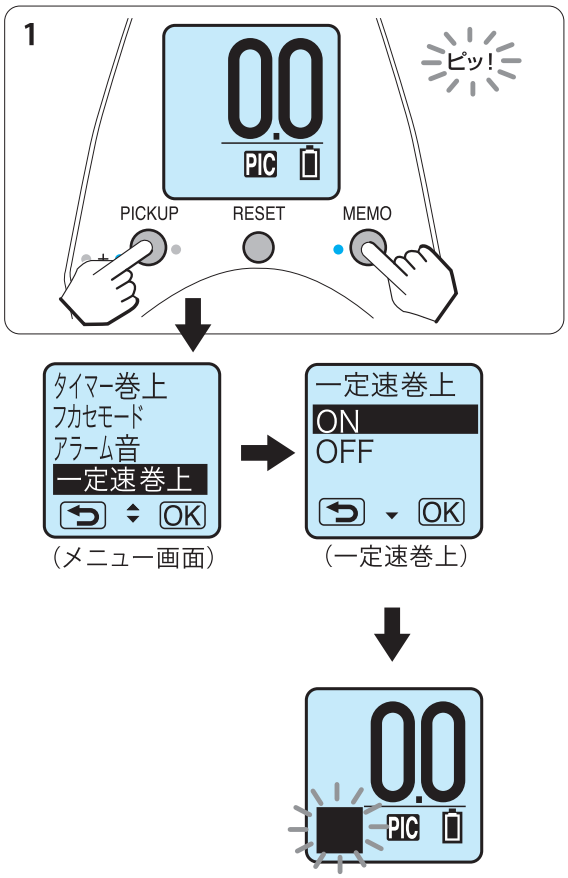
〈釣れタナメモリー例〉
（95.0mでアラームが鳴り、仮に5.0m巻いている場合）

機能設定の基本操作「12.一定速巻上モード」

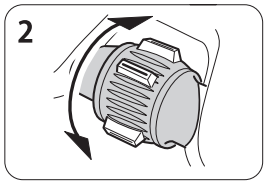
●一定速巻上モード

通常は、リールに負荷がかかると巻上げ速度は遅くなりますが、一定速巻上モードにするとリールにかかる負荷に関係なく、設定した速度で巻上げます。
※海の状況や魚の動きによっては動作が不安定になることがあります。その際は本設定を解除してください。

1. MEMO スイッチ と PICK UP スイッチ を同時に2秒間押してメニュー画面にしてください。
※図は300J
（300JLはPICK UPとMEMOが逆になります。）

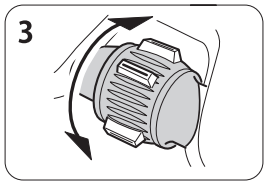


2.ジョグパワーレバーで「一定速巻上」を選択し
300Jは OK（ MEMO スイッチ）
300JLは OK（ PICK UP スイッチ）
を押し、さらにジョグパワーレバーで
「ON」を選択し
300Jは OK（ MEMO スイッチ）
300JLは OK（ PICK UP スイッチ）
を押します。



画面左下に、■ が表示されます。

3.ジョグパワーレバーを操作し、キープしたい巻上速度になるよう調節し、ジョグパワーレバーから指を離してください。しばらくすると自動制御が始まり、調節した速度をキープします。



※作動範囲はパワーレバーの数値1～30です。
※パワーレバーの数値がHIのときには、一定速巻上はしません。
※負荷の変動が非常に大きいときや、ドラグを緩めに設定しているときには、ジョグパワーレバーを動かした際に急に出力が大きくなったり、小さくなったりすることがありますが、異常ではありません。

機能設定の基本操作「13.水深補正」

●水深補正

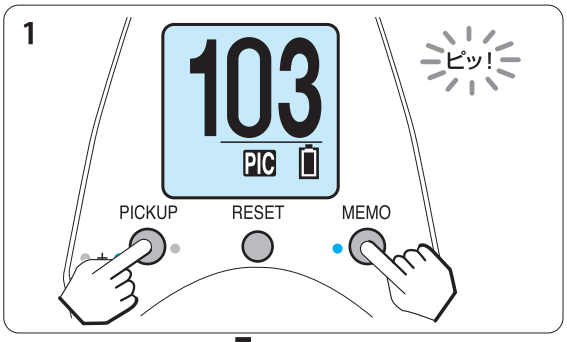
カウンターの表示が糸色に対してズレてきた時、糸色に合わせてカウンター表示を補正することができます。

便利 実釣中にカウンターを補正することができます！

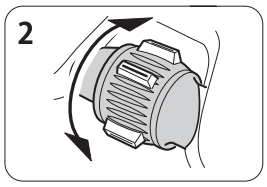
（例）糸色ではちょうど100mに対しカウンターの表示を103mから糸色100mに合わせ補正する場合。

1.補正したい水深が表示された状態で、
MEMO スイッチ と PICK UP スイッチ を同時に2秒間押してメニュー画面にしてください。

※図は300J
（300JLはPICK UPとMEMOが逆になります。）



2.ジョグパワーレバーで「水深補正」を選択し
300Jは OK（MEMO スイッチ）
300JLは OK（PICK UP スイッチ）
を押します。





（メニュー画面）

※《実行しますか？》が流れ文字として表示されるので、再び
300Jは OK（MEMO スイッチ）
300JLは OK（PICK UP スイッチ）
を押します。

※水深が10.0m未満の時は補正は行なえません。



3.ジョグパワーレバーで希望の水深を選択し、
300Jは OK（MEMO スイッチ）
300JLは OK（PICK UP スイッチ）
を押して水深画面に戻ります。



（表示例）

4.水深が補正されました。

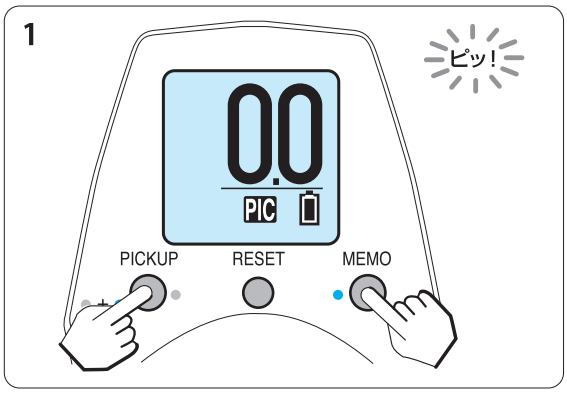


機能設定の基本操作「14.実釣来歴」

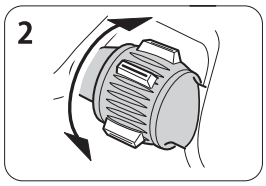
●実釣来歴

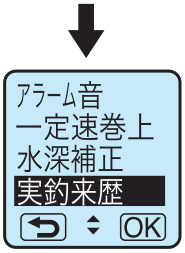
電動リールの総巻上距離と総使用時間を確認できます。
※表示値には多少誤差が生じることがあります。

1. MEMO スイッチ と PICK UP スイッチ を同時に2秒間押してメニュー画面にしてください。
※図は300J
（300JLはPICK UPとMEMOが逆になります。）



2.ジョグパワーレバーで「実釣来歴」を選択し
300Jは OK（MEMO スイッチ）
300JLは OK（PICK UP スイッチ）
を押します。





（メニュー画面）



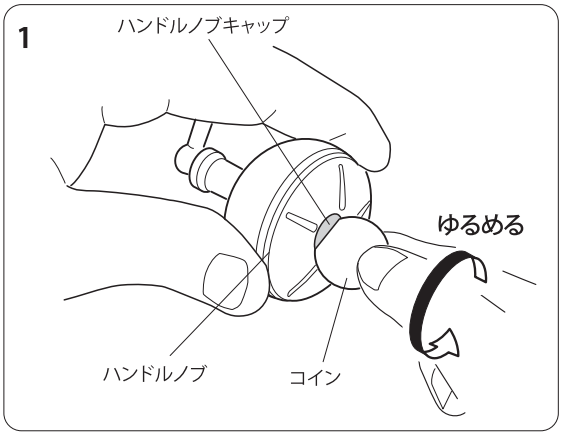
（表示例）

3.総巻上距離と総使用時間が確認できます。
300Jは OK（MEMO スイッチ）
300JLは OK（PICK UP スイッチ）
を押すと水深画面に戻ります。

機能設定の基本操作「15.ハンドルノブの取り外し方」

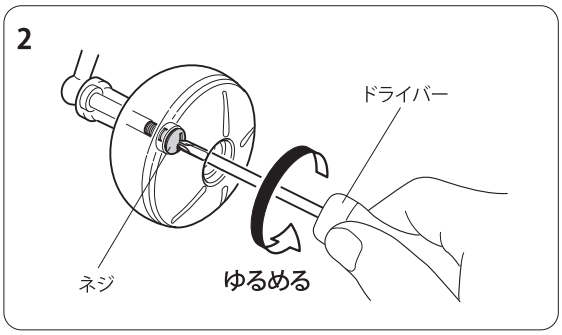
1.ハンドルノブを手で押えながらコインでハンドルノブキャップをゆるめて外します。

※ハンドルノブキャップにコインをしっかりかみ合わせて回さないと、ハンドルノブキャップが傷付いてしまいますのでご注意ください。

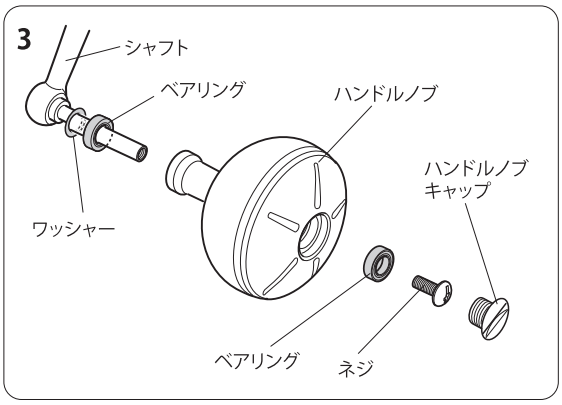


2.ドライバーでノブ内部のスクリューをゆるめて外します。

※スクリューには、ゆるみ止め防止剤が付いていて、ゆるみにくくなっています。ネジ山を傷めないようにご注意ください。



3. 部品構成は図のようになります。



機能設定の基本操作「16.その他の便利機能」

●いろいろアラーム

船べり、棚メモリー…さまざまな情報を音でお知らせ、いろいろなアラーム。



ジョグパワーレバーアラーム

・ジョグパワーレバーのMAXの位置と、OFFの位置をアラーム音でお知らせします。

船べりお知らせアラーム

・巻上げ中、船べり停止6m手前より2m間隔でピッ、船べり停止位置でピーッと鳴り仕掛けが船べりにだんだん近付いて来るのをお知らせします。

棚メモリーお知らせアラーム

・仕掛け投入中、メモリーした棚の10m手前より2m間隔でピッ、メモリーした棚ではピーッと鳴り、メモリーした棚にだんだん近付いて行くのをお知らせします。

※棚さぐり時に頻繁にアラームが鳴らないように棚メモリーお知らせアラームはメモリーした棚より6m以上巻上げてから、再度糸を出さないと鳴らないようになっています。

サブカウンターの設定を底からカウンターにすることで、棚メモリーお知らせアラームは機能します。

スイッチアラーム

・各スイッチを押すと、アラーム（ピッ）が鳴り、スイッチが確実に押されたことを音で確かめられます。（メニュー設定によりOFFにすることもできます。）

過電圧警告アラーム

・電源電圧がリールの使用可能範囲より高いとき、連続アラーム音を発し、警告します。ただちにその電源の使用をおやめください。

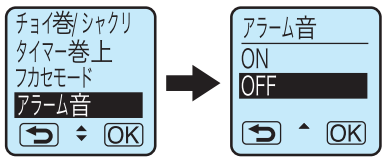
タイマー巻上げお知らせアラーム

・タイマー巻上げ前にアラームにてお知らせします。

●アラームON・OFF選択

アラーム音を設定により消すことができます。



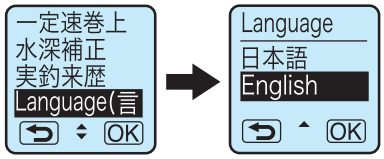


・初期設定はONになっています。
・アラームをOFFにすると、スイッチ操作やジョグパワーレバーを操作してもアラーム音は出ません。
・アラームOFFにしてもフカセモードのアタリアラームやフカセクリックはOFFになりません。

1.メニュー画面でアラームON・OFF画面にしてください。
2.ジョグパワーレバーを操作してOFFにしてください。
3. 300Jは OK（MEMO スイッチ）
300JLは OK（PICK UP スイッチ）を押して水深画面に戻ったらセット完了です。

●Language（言語）選択

液晶画面に表示される言語を日本語/英語から選択できます。



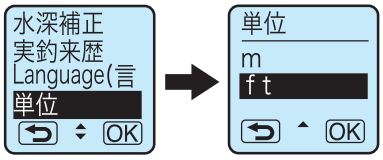
1.メニュー画面でLanguage画面にしてください。
2.ジョグパワーレバーで希望の言語を選択してください。
3. 300Jは OK（MEMO スイッチ）
300JLは OK（PICK UP スイッチ）を押して水深画面に戻ったらセット完了です。

機能設定の基本操作「16.その他の便利機能」

●単位選択

液晶画面に表示される数値の単位をm(メートル)/ft(フィート)から選択できます。
※ただし、ft（フィート）表示に設定した場合でも道糸入力時に限り、m（メートル）表示となります。

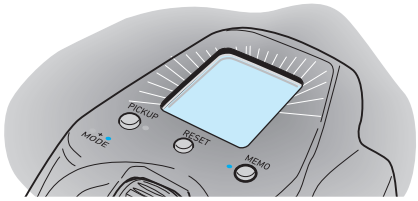
1.メニュー画面で単位画面にしてください。
2.ジョグパワーレバーで希望の単位を選択してください。
3. 300Jは OK（MEMO スイッチ）
300JLは OK（PICK UP スイッチ）を押して水深画面に戻ったらセット完了です。



●カウンターランプ

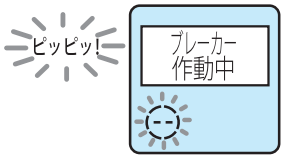
カウンター内のランプが常に点灯。

・薄暗いところでもカウンターが見えるよう、通電中はいつもカウンター内のランプがついています。



●ブレーカー作動表示

・リール本体の破損を防止するため、過度な負荷が加わったり、過度な温度上昇を検知するとブレーカーが作動し、巻上げ動作を停止します。過度な負荷が加えられた場合には5秒間、過度な温度上昇が起きた場合には15秒間停止します。



（点滅表示）

仕様一覧

●リール仕様一覧

21シーボーグ300J/JL

製品コード			300J：00810018 / 300JL：00810019
ギア比（手動時）			5.1:1
標準自重（g）			560
最大ドラグ力（kg）			16
標準巻糸量（m） ※ブライトとは、当社棚センサー ブライト（PE）のことです。	ブライト（号）	2	700
		3	400
		4	300
		5	230
	ナイロン（号）	5	280
		6	200
ボールベアリング入数（ボール/ローラー）			12/1
電源電圧			DC12V～16.8V
最大巻上力　※1		（Kg）	59
常用巻上速度（1kg負荷時）　※2		（m/分）	150
JAFS基準巻上力　※3		（Kg）	14
JAFS基準巻上速度　※3		（m/分）	210
電流（A）	無負荷時		4
	定格		5.5
	最大		20
変速機能	無負荷時		0～ 210 m/分（無段階変速）
最適バッテリー			ダイワスーパーリチウムシリーズ ダイワタフバッテリーシリーズ

※1：最大巻上力＝電源電圧13 V、軸トルクによる参考値。（Kg＝Kgf・cm）
※2：常用巻上速度＝電源電圧13 V、1kg負荷時の100m巻上げ速度の平均。
※3：JAFS基準巻上力/巻上速度＝日本釣用品工業会規程、電源電圧13 Vにおける測定値。

●カウンター部仕様

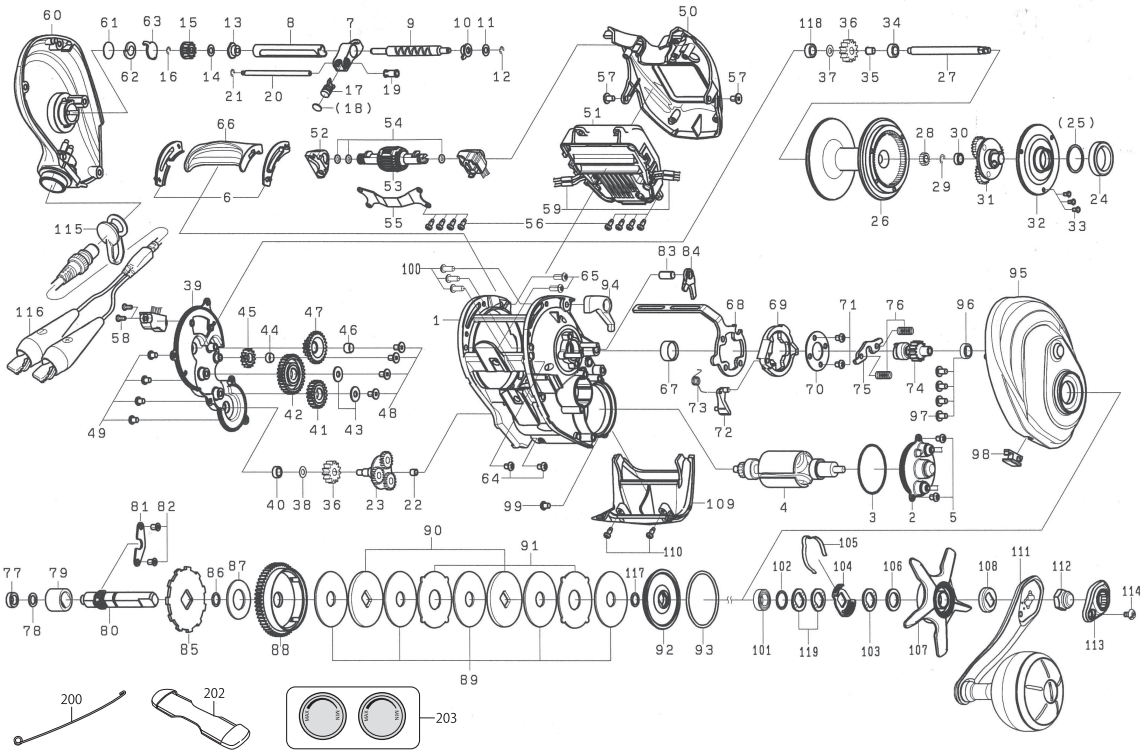
水深表示範囲	上のカウンター：0.0～3000 m 下のカウンター：－3000～3000 m
使用可能温度	－10℃～60℃

※改良のため、仕様を予告なく変更することがあります。

展開図

21シーボーグ 300J/JL

※図は300J



No,	部品名 300J	部品名 300JL	No,	部品名 300J	部品名 300JL	No,	部品名 300J	部品名 300JL	No,	部品名 300J	部品名 300JL
1	フレーム	フレーム	34	スプールボールベアリング(マグシールド)	スプールボールベアリング(マグシールド)	67	クラッチカムベアリング	クラッチカムベアリング	100	RSプレートSC(B)	LSプレートSC(B)
2	モーターホルダー	モーターホルダー	35	スプールシャフトカラー	スプールシャフトカラー	68	クラッチカムプレート(A)	クラッチカムプレート(A)	101	ハンドルボールベアリング	ハンドルボールベアリング
3	モーターホルダーOリング	モーターホルダーOリング	36	アイドルギア(A)	アイドルギア(A)	69	クラッチカム	クラッチカム	102	ハンドルベアリング W	ハンドルベアリング W
4	モーター	モーター	37	スプールシャフトベアリング W	スプールシャフトベアリング W	70	クラッチカムプレート(B)	クラッチカムプレート(B)	103	ドラグSP・W(A)	ドラグSP・W(A)
5	モーターホルダーSC	モーターホルダーSC	38	アイドルギア W	アイドルギア W	71	クラッチカムプレートSC	クラッチカムプレートSC	104	ドラグホルダー	ドラグホルダー
6	クラッチレバープレート	クラッチレバープレート	39	セットプレート	セットプレート	72	キックレバー	キックレバー	105	ドラグリーフSP	ドラグリーフSP
7	レベルワインド	レベルワインド	40	アイドルギアボールベアリング	アイドルギアボールベアリング	73	キックレバーSP	キックレバーSP	106	スタードラグ W	スタードラグ W
8	ウォームシールド	ウォームシールド	41	アイドルギア(B)	アイドルギア(B)	74	ピニオン	ピニオン	107	スタードラグ	スタードラグ
9	ウォームシャフト	ウォームシャフト	42	アイドルギア(C)	アイドルギア(C)	75	クラッチプレート	クラッチプレート	108	ハンドルカラー	ハンドルカラー
10	ウォームシャフトカラー(A)	ウォームシャフトカラー(A)	43	アイドルギア W	アイドルギア W	76	クラッチプレートSP	クラッチプレートSP	109	フィンガーカバー	フィンガーカバー
11	ウォームシャフトW	ウォームシャフトW	44	アイドルギア(D)カラー	アイドルギア(D)カラー	77	ギアシャフトカラー	ギアシャフトカラー	110	フィンガーカバーSC	フィンガーカバーSC
12	ウォームシャフトリテイナー	ウォームシャフトリテイナー	45	アイドルギア(D)	アイドルギア(D)	78	ギアシャフトW	ギアシャフトW	111	ハンドルAS	ハンドルAS
13	ウォームシャフトカラー(B)	ウォームシャフトカラー(B)	46	アイドルギア(E)カラー	アイドルギア(E)カラー	79	ドラグカラー	ドラグカラー	112	ハンドルナット	ハンドルナット
14	ウォームシャフトギア W	ウォームシャフトギア W	47	アイドルギア(E)	アイドルギア(E)	80	ギアシャフト	ギアシャフト	113	ハンドルロックプレート	ハンドルロックプレート
15	ウォームシャフトギア	ウォームシャフトギア	48	アイドルギアSC	アイドルギアSC	81	ギアシャフトプレート	ギアシャフトプレート	114	ハンドルロックプレートSC	ハンドルロックプレートSC
16	ウォームシャフトリテイナー	ウォームシャフトリテイナー	49	セットプレートSC	セットプレートSC	82	ギアシャフトプレートSC	ギアシャフトプレートSC	115	コネクターキャップ	コネクターキャップ
17	ボール	ボール	50	ICモジュールカバー	ICモジュールカバー	83	ストッパーピン	ストッパーピン	116	コード	コード
18	ボールW	ボールW	51	ICモジュール	ICモジュール	84	ストッパー	ストッパー	117	ギアシャフトOリング	ギアシャフトOリング
19	レベルワインドボストカラー	レベルワインドボストカラー	52	ジョグパワーレバーホルダー	ジョグパワーレバーホルダー	85	ラチェット	ラチェット	118	スプールシャフトボールベアリング	スプールシャフトボールベアリング
20	レベルワインドボスト	レベルワインドボスト	53	ジョグパワーレバー	ジョグパワーレバー	86	ギアシャフトOリング	ギアシャフトOリング	119	ドラグSP・W(B)	ドラグSP・W(B)
21	レベルワインドボストリテイナー	レベルワインドボストリテイナー	54	ジョグパワーレバーOリング	ジョグパワーレバーOリング	87	ドライブギア W	ドライブギア W	200	イトドオシピン	イトドオシピン
22	モーターギアカラー	モーターギアカラー	55	ジョグパワーレバープレート	ジョグパワーレバープレート	88	ドライブギア	ドライブギア	201	リールブクロ	リールブクロ
23	モーターギア	モーターギア	56	カバープレートSC	カバープレートSC	89	ドラグ W	ドラグ W	202	スタンドカバー	スタンドカバー
24	スプールブレートボールベアリング	スプールブレートボールベアリング	57	ICモジュールカバーSC	ICモジュールカバーSC	90	ドラグディスクW	ドラグディスクW	203	フォールブレーキダイヤルシール	フォールブレーキダイヤルシール
25	スプールブレートボールベアリング	スプールブレートボールベアリング	58	センサーSC	センサーSC	91	ドラグリップ W	ドラグリップ W	204	マニュアル(ベツヅリ)	マニュアル(ベツヅリ)
26	スプール	スプール	59	コードカバー	コードカバー	92	ドラグディスクカラー	ドラグディスクカラー			
27	スプールシャフト	スプールシャフト	60	LSプレート	RSプレート	93	ドラグディスクカラーOリング	ドラグディスクカラーOリング			
28	スプールシャフトギア	スプールシャフトギア	61	メカニカルブレーキノブ W(A)	メカニカルブレーキノブ W(A)	94	クラッチレバー(B)	クラッチレバー(B)			
29	スプールシャフトギアリテイナー	スプールシャフトギアリテイナー	62	メカニカルブレーキノブ・W	メカニカルブレーキノブ・W	95	RSプレート	LSプレート			
30	スプールシャフトボールベアリング	スプールシャフトボールベアリング	63	メカニカルブレーキノブ W(B)	メカニカルブレーキノブ W(B)	96	ピニオンボールベアリング	ピニオンボールベアリング			
31	スプールギア	スプールギア	64	LSプレートSC(A)	RSプレートSC(A)	97	ピニオンボールベアリング SC	ピニオンボールベアリング SC			
32	スプールブレート	スプールブレート	65	LSプレートSC(B)	RSプレートSC(B)	98	ラインストッパー	ラインストッパー			
33	スプールブレートSC	スプールブレートSC	66	クラッチレバー(A)	クラッチレバー(A)	99	RSプレートSC(A)	LSプレートSC(A)			

※調整、その他により、展開図、部品表内容が製品と一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

故障かな?と考える前に

症　状	考えられる原因	処　置	参照ページ
パワーレバーを操作しても、モーターが回転しない。	・船べり停止後、そのまま巻き続けカウンター表示が 2.0 mになっています。	・正常です。(巻込み防止のため手動以外作動しないようにしてあります)。	P30
	・レバーを1度OFFの位置に戻していません。	・1度レバーをOFFの位置に戻して巻上げを開始してください。	P13
	・安定しない船の電源を使用しています。	・船電源は不安定で、正常に作動しないことがあります。電動リール専用バッテリーをご使用ください。	P9
カウンターがつかない。	・バッテリーの残量切れです。	・バッテリーを再充電してご使用ください。	P9
	・コードの断線です。	・コードを新品と交換してください。	P11
	・バッテリーと ⊕ 、⊖ が正しく接続されていません。	・⊕、⊖の逆接なく、確実に接続し直してください。	P8
船べり停止位置がおかしい。	・仕掛けセットしたとき、RESETスイッチを押していません。	・仕掛けをセットした後は必ず水面ゼロ設定をしてください。	P30
	・オモリの号数や船のゆれによって多少ズレることがあります。	・えらべる船べり停止の設定値を調整してください。	P31
	・糸がのびて水面ゼロ設定点が下にズレてしまっています。	・水面ゼロ設定を再度行ってください。	P30
カウンター表示に誤差が多い。	・使用中に道糸がのびることがあり、カウンター表示と色糸との間に差が生じることがあります。	・再度、道糸データを入力してください。	P17~26
		・水深補正をしてください。	P43
	・実釣中、電源が消えた時に糸を巻いてしまった。	・再度、道糸データを入力してください。	P17~26
	・糸を出している時に、RESETスイッチを長押ししてしまった。	・再度、道糸データを入力してください。	
チョイ巻きスイッチを押しても巻けない。	・速度設定が0(ゼロ)になっています。	・メニュー画面で速度を設定してください。	P34
	・船べり停止位置＋3m以内です。	・安全のためその範囲では巻けない設定となっています。	P34
シャクリスイッチを押してもシャクリしない。	・ジョグパワーレバーがOFFになっています。	・シャクリの早さが0になっています。ジョグパワーレバーでシャクリの速さを決めてください。	P35~37
	・船べり停止位置＋3m以内です。	・安全のためその範囲では巻けない設定となっています。	
	・チョイ巻き設定になっています。	・メニュー画面でシャクリの設定をしてください。	

※上記の点検が行なわれてもなお、正常に戻らない場合、およびほかの故障が生じ修理が必要な場合、あるいは部品御注文の際は、お買い求めの販売店、または取説裏面に記載されたお客様センターにおたずねください。

アフターサービスについて

本製品は当社の厳重な検査を経て出荷されたものですが、万一、故障が生じ修理が必要な場合、あるいは部品御注文の際はお買い求めの販売店、または下記のお客様センターまでお問い合わせください。なお、修理品は部品代のほか手数料をいただきますのでご了承ください。

お客様センター（無料）　携帯電話からもご利用できます

TEL　0120-506-204

受付時間：9:00～17:00　（土・日・祝祭日は除く）

ホームページ上からもご確認、お問い合わせできます

www.daiwa.com/jp/

グローブライド株式会社

〒203-8511 東京都東久留米市前沢3-14-16